

# 幼児の教育

第五十二卷 第四號



日本幼稚園協會

4

# フレーベル館の28年度保育用品

- No. 41 幼児指導要録  
B 5判、4頁、 定価 一部 5円
- No. 42 幼児指導要録の趣旨と  
その取扱いについて  
定価 4円
- No. 45 保育日誌  
定価 1枚 2円
- No. 47 園籍簿  
定価 1枚 2円
- No. 48 身体検査票  
定価 1枚 2円
- No. 50 園のたより  
A 6判28頁 定価 15円
- No. 51 つうえんブック  
定価 15円
- No. 53 卒園臺帳  
B 5判 定価 1枚 2円
- No. 55 保育料袋  
定価 1枚 2円
- No. 56 保育證書 (A)
- No. 57 同 (B)  
AはB 4判、BはB 5判  
定価 A 7円 B 5円
- No. 58 園児募集ポスター (A)
- No. 59 同 (B)
- No. 60 同 (C)  
定価 ABC 各20円
- No. 72 出席簿 (縦型)  
定価 1枚 2円
- No. 74 園のたより用ゴム印  
欠と休をあらたに入れました。  
1組 14ヶ 定価 200円
- No. 75 綴込表紙  
B 5判 何でも綴り込めます。  
定価 50円

- No. 101 出席カード  
表紙裏に、身体検査表と月別出席表  
を入れました。  
A 5判13枚 (表紙共) 定価 35円
- No. 103 出席カード用貼紙  
10人分12ヶ月一箱 定価 200円
- No. 111 むりえ (初級)
- No. 112 同 (上級)  
B 5判各10枚 定価 各 35円
- No. 118 おさいく帳 (B)
- No. 119 同 (A)  
鼠紙10枚、黒紙2枚  
(B)はB 5判 定価 32円  
(A)はA 4判 定価 40円
- No. 126 自由画帖 (A)
- No. 127 同 (B)
- No. 128 同 (C)  
Cは上質ざら紙30枚  
定価 A35円 B30円 C25円
- No. 131 折紙 (特製5寸) 定価50円
- No. 132 同 ( // 4寸) 定価40円
- No. 133 同 (並製5寸) 定価35円
- No. 134 同 ( // 4寸) 定価25円  
以上いずれも1色100枚包の値段です。  
色の種類は16色。(並製は15色)
- No. 155 まんてんくれよん(12色)  
定価 60円
- No. 156 同 (10色) 定価50円
- No. 157 同 (8色) 定価40円
- No. 158 お道具箱(木製) 定価60円
- No. 159 同 (紙製) 定価35円
- No. 160 鋏 (先丸鋏) 定価35円
- No. 168 たのしいおしごと (No. 1)
- No. 169 同 (No. 2)  
定価 各 45円
- No. 171 組別名札 (桜型)  
両面色紙ばり、色の種類は赤、黄、緑、  
白、桃、藤、水色の7色 定価1個2円

発行所 東京都千代田区神田 株式会社  
小川町二丁目五番地

フレーベル館

振替口座東京  
一九六四〇番

# 幼 児 の 教 育

第五十二卷

第 四 號

昭和二十八年四月

## 目 次

表 紙	三 岸 節 子
希望と計画	倉 橋 惣 三(2)
(ヌース)子どもの研究と理解について考えること	山 下 俊 郎(4)
~~~~~	
新入園児を迎える	松 石 治 子(6)
新入園児の母への手紙	鹿 野 京 子(11)
新入園の子供たちに	平 井 信 義(15)
~~~~~	
幼稚園と小学校	中 川 武 夫(20)
幼児に釈迦を如何に語るべきか	笠 原 秀 定(26)
小鳥を飼う楽しみ(2)	高 島 春 雄(28)
保育所の現状と問題	平 野 恒 子(34)
★たのしいおしごと★(3)	及 川 ふ み(38)
アメリカ童話から(23)	松 原 至 大(40)
4 月 の 保 育	堀 谷 文 子(44)
	鈴 木 と く(51)
お茶の水女子大学児童相談部開設のお知らせ	(25)
折にふれて	(56)

編 集 主 幹 倉 橋 惣 三

協 力 委 員 牛 島 義 友 及 川 ふ み 斎 藤 文 雄

多 田 鉄 雄 波 多 野 完 治 山 下 俊 郎

編 集 委 員 西 山 浪 太 郎 (五十音順)

発 行

日 本 幼 稚 園 協 會

## 希望と計画

倉橋惣三



希望は人を生かす  
事を生かす。

近世の傾向として、教育が、しばしば仕事になりすぎ、殊に組織の中に動かされていく事が多い。そのために、教育に失望や、歡喜の、生きた氣持が失われる事が少くない。併し

これでは、生命ある教育が出来ないのみならず、教育の日々をして生命あらしむる事もできない。現代の教育が、屢々さくばくとして、灰をかむの思いに陥らしむるゆえんであるかも知れない。昔からの所謂、偉大なる教育者の生涯も、必ずしも成功とのみ限らない。しかも、なるも成らぬもその人の生涯を、或いは生涯の各断面を、播り動かさずにいない歡喜や失望の連続であつた。これは即ちその人の教育に生きるゆえんであつた。教育が我が事であつたゆえんである。一対教育は、相手に対してゆく仕事である限り、思ふようにはならない。屢々途中から脱落し、或は逃げてさえもいくであらう。

教育は人生の生活の中で、失望を与える事の多い生活である

ゆえんである。悲しみにたえない。しかし、それが自己の希望と共に動いているものであるがゆえに、相手が離れても自己を離れない。そこに失望と共に、よりつのる心も起つたり失望によつて教えられる大きな教訓なり、励ましなどがあつたりする。

教育の名に於て何が成るかは、必ずしも常に大きい事ではない。たゞ、教育に於てのみ相手と共に、或いは相手に拘わらず私の生きてゆけるゆえんもこゝにあるのであらう。すべての教育者、どうした意味に於て生きようではないか。仮に相手の為、何程の事をなし与え得ると否とに拘わらず、これによつて自分を生かしていかうではないか。悲しみの伴わない希望はないかも知れない。教育に於て殊に、そうである。仮にも、真実の教育を経験するものには、悲しみの方が失望の方がより多いのが常であるかも知れない。しかも、それでこそ、それによつてこそ、彼は生きていけるのである。

希望は我が持つものであると云ひながら、屢々我より大きなものであつて、我のとうよりもその中に我を置くといつた方がいゝ事が多い。これに對して計画は、ずつと、我の方に引きよせ、我自らが持ち、我自らが創りさえもする希望である。そこには、それを我がものとする事に於てさえ、全く自由の意志を妨かしている。そこで、希望はそれを達すると否とが必ずしも我にないが、計画は達するも達せざるも、我が意志に属する。それだけに、その達せざるや、悲しみは強い。強い乍らに、我が事という小ささを出でない。これを、達するや、その喜びは、箇中の喜びに属する。従つて、喜びも失望も我を励ますこと著しいが、又他を以て自らを慰めることもないではない。要するに、希望は、大であり、計画は小であるに過ぎないかも知れない。又、希望は自然であり、計画は人為であるところも多い。人為なるが故に、我と我に強い、我と我を努めしめる。怠る事は、できないのである。又、その立つるや、精にして密ならざるを得ない。これに反するは、怠るである。計画の成らざるを悲しむは、事の最後に於て、成らざるの悲しみよりは、その周到を誤まれるの悲しみである事が多い。人為の常である。希望は時に、事を明日に託して置き忘れる。世俗の達人は、急がば廻れとさえ教える。これをいゝ事にして、希望は屢々柵に置き忘れられる。計画はそうはいかない。今日の計画は、今日をまつ。今日をゆるがせにするは怠りである。自ら責めざるを得な

い。こゝに計画をもつものは、周到忠実ならざるを得ない。希望は時に、祈りて止む事があるかも知れない。計画はそうはいかない。計画は決算の督促がやかましい。それ程計画は、きびしい。時に、春風抬頭、千里の道を希望に揺られてゆく旅人もあるが、頼に行手を計算する計画は、短気ならざるを得ないのである。

楽しいかな希望、きびしいかな計画、人生は旅の如しという。旅は楽しいといひ、悲しいという。その何れにせよ、希望と計画となしに生を送ることは、幸にせよ不幸にせよ、徒勞である。希望と計画に生きるものは、屢々敢へて徒勞を求むるが如くして、実は人生を意義に重ねる。幼児の日々は樂し、希望をもてるや、計画をもてるや。幼児は或は、失望を知らざるの子であるかも知れない。悔いを知らざるの子であるかも知れない。これに變つて希望し、これに變つて計画するわらかなり又勞多きかな。幼児知らず、われらひそかに失望し、幼児知らず、我ら又しても悔ゆ。省みて經驗ありという。たつた少しの事に過ぎない。時に、身を希望に託して、将来を夢み、或いは、計画の中に、自己をしぼつて、辛じて怠慢を免かる。これを合せて喜びと為し得るものは、幸なるかな。或は希望の子といひ、計画の子という。その幸も又、何を計画するかでなくして、希望と計画をもつその事である。



## 子どもの研究と理解について

考えること

山下 俊 郎

☆ ☆ ☆

現代の乳幼児研究における最高峰をしめる学者としてわたくし達はアメリカのアーノルド・ゲゼル博士を挙げることができる。

昨年、博士の三部作が邦訳されることになり、そのうちの乳幼児の心理学（原著名は生後五年間 The First Five Years）をわたくしの手で訳して刊行した。このことが機縁になつて、アメリカ大使館でゲゼル博士の業績を映画にした

「赤ちゃんとおもちゃ」『Life with Babies』

という二巻物の映画の日本版を作るといふので、その訳語の相談をもちかけられ、この映画を試写してもらつてみる機会が与えられた。ゲゼル博士の研究の状況、まだ学生に対する講義、教師に対する講義、母親教育の状況、博士の臨床診断と指導の実際の模様が、映画に映し出されてひじょうに興味深くみることができた。

この映画をみてわたくしの感じたことは、研究と教育のための設備、ことに映画を利用してゐること、まことにうらやましく感じられた。ほとんどこうに足りない設備と零に近い研究費で、苦しみながら、一向に研究の進まないわたくし達にくらべて、実にめざましいものである。

☆ ☆ ☆

ゲゼル博士は乳幼児研究にたずさわることで四十年、すでに七十三才になられるはずであるが、研究の設備と研究費の豊かさ、さらに博士と研究をともにしている研究者の多数がみごとなチーム・ワークのもとに研究をすすめていることはまことにうらやましい限りである。日本にもこういふためぐまれた研究の環境がほし

い。そうなつたら日本の子どものしあわせがどれだけ進むことだろう。

なお、ゲゼル博士は、わたくしの訳書に日本の読者のために日本版への序文を下さつたが、その中で、博士の書を読むのに、日・米という相異なる文化の中に成長している子ども達の類似性と差異性という二つの点にとくに留意するようにとの注意をして下さつた。

このことは、終戦後に入つてきたアメリカのいろいろの学説を理解しこれを日本の子どもにも適用しようとする場合に、よくよく考えなければならぬことである。

子どもの生活している社会、そしてそこに流れている文化によつて、子どもの性格形成はいちじりしく影響される。このことは一応誰でも認めていることなのに、いざ現実のこともにあてはめるときに、まるで盲目的に、  
欧洲やアメリカの文化とのつながりにおいてはじめて考えられるようなことを、そのまま日本の子どもにあてはめようとする人々がいることはなげかわしい。このことをわたくし達は精神分析理論の日本の子どもへの盲目的な適用に見ることができる。

☆ ☆ ☆

斎藤文雄博士は、二月号のヌースにひとりひとりの子どもということを強調しておられるが、日本の子どもを育つている社会、ことに家庭生活の特異性というものを理解した上で、子どもを理解し、育てることはひとりひとりの子どもの理解と同じように大切なことである。



# 新入園児を迎える

東京都台東区立清島幼稚園長

松 石 治 子

## 一、園児募集と入園

終戦後幼児教育の重要性が一般の人々に認識された結果、公私立幼稚園の志願者が非常に多く、殊に都内公立幼稚園は、募集人員の四倍から八倍と云う応募者であります。公立幼稚園は園児数と教員数が区の管理の下に決定されて居りますから、私立幼稚園の様にその状況に依つて無理をしても一組増加する等と云う事は出来ないであります。区の予算の枠内で其の年度の経営をして行くのでありますから、応募者が多いと全く困却するのです。募集人員が限定されそれ以上はどうする事も出来ませんから、折角幼稚園教育を受けさせ様と熱望して来た親達に納得の出来る様な詮考方法を考えて行かなければなりません。公立幼稚園は大体東京都では小学校と併設の場合が多いので、幼稚園修了のあとに来る入学と云う事を考えての希望者が大多数であります。

詮考は各園の事情に依つてテスト、身体検査、或は抽籤等種々ありますが、あの頑是ない幼児たちが、今から試験地獄になやまされ

ると云う様なことの無い様に、只、幼児の発育の程度が集団生活に適するかどうかと云うことを簡単に一応しらべて、あとは抽籤で決めることが好ましいのではないかと、現に私の区では十ヶ所の公立幼稚園が申合せて最も公平なしかも幼児に適した詮考方法を研究実施する事になつて居ます。

園長は何と云つても入園に関しては頭を悩まし、従来の種々の関係、知己を頼つての強硬な入園談判にはほとく閉口し、入園者決定の前には往來も歩けない仕末となるのであります。庭の隅でも廊下でもよいから置いてくれの類もあれば、親子での泣落し、お偉い方からの紹介状或は直談判、過激なのは座り込み等、公立幼稚園の正しい性格を知らない人達に説得したり、頼んだり、終にはこちらが拝み度くなるような場面も出て来るのです。

親の方でもこの節は少し考えて、区当局への陳情、請願或は教育長への直談判など、園長では駄目と分ると戦術をかえあの手、この手これも子を思う親の愛情乍ら、受入れる幼



幼稚園の少いことが第一の原因でありますから、幼稚園が小学校に全部附設される将来を何とかして開拓して行くことが目下の急務と思はれます。

## 二、父兄の啓蒙について

何十人に一人と云う幸運の園児は、家でお赤飯のお祝いにいよく入園の段取りとなります。親等は「これで安心、入学にも楽だから」と思っているわけではないでしょうか。親に向つて「何の為に幼稚園へお入れになりましたか」と問いますと、答は至極簡単です。「兄弟が学校へ行つているから連れて行くのに丁度よい」「家に居るとお金許り使つているから」「お店が忙しいから」「学校へ上る時楽だから」等はまだしも「家にいるとうるさいから」とは驚いたものです。尤も地域に依つてもつと幼児期教育の重要性を考へて入園する人も多いと思ひますが、私の幼稚園の場合には全く呆れてしまふ様な事が多いのであります。

幼児を預つたら先づ親の教育から手をつけなければならぬことを痛切に

感ずるのであります。新入園児の父兄打合会は少くも入園前の一ヶ月前位には開き度いものであります。父兄は「幼稚園」と云うもの、使命を殆んど知らないのです。自分達が昔経験したところのある幼稚園生活をもとにして考へている人もあれば、保育所と間違えて居る人もあります。打合会には園長や教諭は出来る丈け分り易く幼稚園教育の目的や方法等について話し合う様な心構えがなければなりません。又これについて正しい理解の出来る様な資料、たとえば身長や体重のグラフや、行動記録や予定案、或は幼児の製作物や年間行事の写真、園報等を用意して、実物に従つて説明して行きます。親等の幼稚園を知つている園児は殆んど皆無であるつもりで當つて行かないと思はぬ失敗があります。この場合一応は下調査しておく事も必要と思ひます。これは次にお話し様とする。「家庭生活調査表」に依つて見当をつけることが必要であります。

調査表は入園確定と同時に配布して、直ぐに記入してもらいます。この調査表は公立幼稚園研究部で考案されたもので、非常によい資料となります。その主な項目をあげますと

次の通りとなります。

幼児及保護者については、出来る丈け正確に委しく記入する様な欄を設け、家族、住居、環境及養育の状況を調査いたします。又健康についても既往症は勿論、罹り易い病氣も記入してもらい、生活の様子は、あそびとかお小遣や玩具等を始め幼児の性質について書入れる欄があり、家庭での教育方針や幼稚園に対する希望等を卒直に記してもらつて居り、園から家庭までの略図を書くための大きい欄もあります。この調査表は非常に後々まで役立つものでその効果は大きいものであります。

父兄が幼稚園教育の目標をおぼろげ乍ら意識すると、親が子に対する之からの方針が決つて来ます。今まで大きいのお乳を飲んで来た子供も、その日から悪い癖を止めさせられ、お小遣いをせびつていた子供も幼稚園へ行かれませんかの一言で使はなくなる等だんく入園の心構えが親にも子にも又家人にも滲透して行きます。斯うしたことに依つて幼稚園の協力態勢が刻々出来上り、幼稚園では

その教育の第一歩がしつかりと踏み出されたことを感ずるのであります。

### 三、新入園児と教諭

親たちの程よい嫉に、緊張とよろこびに息をはづませた新しい入園児は恐る／＼幼稚園の入口へ参ります。教諭は下駄箱の名札の位置を大体覚えておいてこやかに幼児を迎え入れます。胸には子供の名前が下げられて居ます。組の色分けも出来ている。教諭は「あゝあなたは〇〇さんね下駄箱は、こゝですよと優しく名前を呼んで、一人／＼導き入れま

す。  
「先生おはよう」と親に促されて云う子供に教諭は一人／＼受け応えます。柔かい手はいつかしつかり先生の手を握り、足はいつしかレコードの流れるお部屋へと踊ります。  
一生の内の社会生活の第一歩の踏み出し方を手伝う教諭さんの胸には教育愛の熱いよろこびが一ぱいにひろがって行くことでしょう。「お附添は送り迎え丈に止めて下さい」こんな貼紙で第二日目にはあつさり父兄陣は退却、そ

の後が一寸泣いたり逃げ出したりの余興もありますが面白い保育内容に引入れられて、時間の経つのも忘れる程になるのは三四日後であります。

教諭さんはこの間はそれこそ文字通りの悪戦苦闘、しかし背後の親の協力があればこそ日一日と自分の手の内に入つて行く幼児たち、可愛い歌声にほつとする垣根の外の母親たちは、笑のところ、自分達の方が幼稚園へ入つた様な感激をもつて居ることでしょう。

「〇〇さん」「はい」とはつきり返事の出来るよう「こゝにあるお靴はだれの」「〇〇さんが出しつばなしをしたの」「〇〇さんお靴は自分の下駄箱へちやんと仕まうのよ」と一人一人を親切に叱らずに導くことや「〇〇さんお鼻の下は？」と注意したり、教諭さんのお仕事は実に大変なものです。

どんなに骨が折れる仕事でも、どんなに面倒な仕事でも、いつもだまづてにこゝと一生懸命に努力する教諭さんは、その手がける幼児が集團生活に慣れることの早さに驚かさず。親等の感謝に包まれて教育することのよろこびをその人はいつでも持つているの

です。一年或は二年間の幼児との生活の結び付きが其の第一日目から順調に行くことがどんなに大切でありましょう。それには教諭さんの心掛けの良さがうかがわれるのです。周到な用意、熱心な研究、円満な人格、そうした要素が絶対に必要だと思ひます。

### 四、集團生活への導入

生れて始めて大勢の中へ入つた新入児たちは、一人／＼の身になつて考えて見るとまことに涙の出る程にちらしいものなので「お母ちゃん、お母ちゃん」と何もしないで泣き続ける幼児を、若い助手さんは持て余して自分も泣き相なのです。同情すると涙が出ると云うのです。この様な幼児は今までの家庭教育が間違つていたのだと考えさせられますが、又一面からは発育がおそのいのではないかと云うことも観察して見なければなりません。幼稚園は楽しいところ、と云う気分を持たせる様に、保育の予定案は立て、行かなければなりません。

こゝで一寸入園式の事にふれて見度いと思

入園式と云うのは幼児が園児として入る儀式でありますから、全部が楽しい遊びと云う訳にはまいりません、しかし第一歩の集団生活に失望落胆のない様にしてやらなければいけないと思います。入園式は本当は大人の気休めの様な気がしてなりません。何故なら園長さんが園児に挨拶するのはつげ足りで父兄や来賓に長々しいお礼の言葉を云う。父兄や来賓は無やみに園長や、幼稚園を褒め上げる。幼児にとつては有難めいわくで、「こんな幼稚園なら来るのでは無かつた」と心の中で思うかも知れない。生れてからそんな長時間の椅子に腰掛けた事がない、そんな長いむづかしい話を聞かされた事がない、御機嫌が悪くなるのは当り前だと思いません。

新入児を楽しませる工夫をしてほしいと思います。お土産も早く渡して疲れない内に明日を約して帰す方が、どれ程効果的か分りません。園に依つては幼児を前に置いて、保育方針や注意事項等を持ち出し二時間も三時間も費す所がありますが、これは反省すべきで若し父兄へ話があれば別の日か、パンフレットにして配布する事がよく、入園式はあくまで幼児保育の出発第一日目として、教育的に行い度いものだと思います。従つて第一日目は父兄と一緒に遊ぶのも出来ませんでしたから、第二日目からは「遊び」を主にする予定案を立て、行きます。

仲々集団の中で気楽に生活して行くことが出来ません。ですから最初は出来るだけ遊び友達を利用してなれさせるようにすると、大変助かる面もあります。又教諭は出来るだけ早く幼児の名前を覚えなければなりません。そのためには父兄にたのんで二週間間は同じ服装で登園してもらう事も秘伝です。又早く特徴を捜し出してそれで覚えて行くのです。毎日一度は必ず出席簿によつて名前を呼ぶ事も忘れてはなりません。さて保育内容は始めは知つているものから始めることにいたします。唱歌はレコードやピアノでお手々つないでや、夕焼小焼の様なもの、これに合せて歌つたり拍子を取つたりさせます。団体あそびは、かごめ／＼の様な歌あそびを繰返している内にリズムをとる事も覚えて来ます。紙とクレヨンをあたえて好きな絵を描かせる、簡単な紙芝居をする、折紙を撒いて拾はせて、色のあそびをしたり幼稚園の中をみんで並んで歩いたり汽車ばつ

ぼになつたり、お花になつたり、蝶になつたり、カスタンネットのリズム打ちをしたり、毎日楽しい雰囲気にはたらせている内に、遊ぶ時間も一時間から二時間、三時間と延して行きます。

この間に在園児の唱歌や遊戯、人形劇等を見せて貰つたり、在園児と手をつないで一寸散歩に出たりする事も大切なことです。又在園児の作つた製作物をお土産にもらつたり、出席カードを貰つたりしてお家へ持ち帰ることのよるこびも大きいものですから、入園して一週間位は、何かしら持ち帰つて親に話しの出来る材料を考えることが大切です。これに依つて、幼稚園と父兄とが子供を仲立ちとして結び付くきつかけが出来ます。父兄の中には、子供が何をしているか見度くたまらず園舎の中へ入つて来る人もありますが、一人の親が来た為保育が目茶目茶になる様なこともありますから、子供がすつかり落着くまでは来てもらはない様によく注意しておき度いものです。

尙最後に遊具について考えて見度い

と思います。園舎内外の遊具は新入児にとつて誠に珍らしいものであります。ブランコへも乗り度い入り台へも乗り度い、と夢中で遊びまわる子供があります。動く遊具或は動かぬ遊具とどちらも危険は多いですが遊具の使い方の方が徹底するまでは充分な監督が必要であります。殊に動く遊具は、乗っている者よりも周囲に立つている者の方に危険の多い場合があります。目をはなさぬ様にしなければなりません。若し手不足の場合は一ツの遊具丈けを使用して順々に乗り方を指導して行くことも大切なこと、思います。

又遊園の草木、池等もいろいろ注意が必要であります。又園舎の入口や通用門等の開閉、或は管理にも余程上手な注意を払はないと、無断で帰つたりして交通事故があつたり、又おかれて登園して門が閉つていたので幼稚園が嫌いになつたり、新学期の問題は考え出せば数限りなくあります。

新入園児を上手に導入するには何と云つても多年の経験を持つ園長或は主任の技量であります、それと併行して、体をよくゆかせ

る若く明朗な教諭、誰にも好かれる様な親切な小使さん、それに満腔の信頼を持つ父兄たち、そうした条件が備われば、明日の日本の建設者としての児童の教育の第一歩は、こゝにしっかりと踏み出されるであります。

新入園児について何か書く様にとのお話で思つた儘を書き連ねましたが、公立幼稚園の現況については、私自身まだ就任後日が浅く充分に知りませんので、或は当らぬことが多いかと思いますが、台東区の私の園の立場から書きましたのでその点お考え違ひの無い様にお願ひ申上ます。尙新入園児の取扱其他に関しては過去二十八年間の体験から記して見ました。御教示を頂けば幸と思ひます。

(筆者、台東区立清島幼稚園長)

## 新入園児の母への手紙

鹿野京子

彌吹く風は膚に冷くとも、陽射しはうららかに、庭隅の花壇の軟かな黒土を持ち上げて新芽の幾つかが、未だ稚いながら力強く春の訪れを謳つて居ります。

お手紙拝見致しました。葉子様御入園の由本当にお目出度うございます。貴女に手をひかれて赤い靴の足どりも覚束なくお訪ね下さいましたのはつい此の間のことの様に思はれますのに、早いものでございますね。初めてのお子様のことではあり、お喜びの深さも又何かと御心配の多いでしょうとも御察し申し上げます。私も一人の母として入園式に癒みました日、いたいいけな子等の姿に胸迫る思いが致しました。今、年々の春に新しい子供達——ひとりくが夫々の家庭に又社会にとつて、かけがえのない宝であります——の清らかに生き生きと輝く瞳を迎え入れる立場になりました、年毎のならばと申しながら、身も心も更まる思いが致します。折柄、新入園児の母として心得て置きたいこと等話す様にとのお手紙頂きまして、私の思いつきますこと幾つか申述べて見ましよう。

時折、私共はお母様方の口からこんな言葉ををききます。

「子供が幼稚園へ出掛けてくれますと本当にホツと致します」内職の手もはかどりますしね」又子供を送り出しながら「よくお勉強してくるのですよ」それから「こちらの幼稚園は××小学校への入学率が大変宜しい相で——」もとより入園を希望するお母様方のすべてが此の様に考えて居られる訳ではありませんまい。それならば幼稚園とは何んな所でしょうか。

幼稚園は且て考えられた様に、単に家庭教育を補ふ施設でもなければ、託児所でもなく何やかや物を教え込む所でもない、まして特殊な学校への準備教育を行う場所ではありません。今日の幼稚園は教育基本法と学校教育法によつて定められた教育体系の最初の学校として、幼稚園独自の使命と目的を有つて居るのです。即ち適当な環境の中に、幼児の生活に即した教育課程に基づいて、幼児を楽しく遊ばせながら、その一人々々の心身共に健全やかな成長発達を助成し将来よりよき社会人

として生活し得る基礎を培うことにあります。  
次のことを先づお母様方に充分理解して頂き  
たいと思ひます。

人格の基礎は、生後五ヶ年の間につくられると云はれます。成長発達の上にそれ程重要な幼児期を、よき幼稚園環境の下に望ましい生活経験をさせ、それが何んなに大切なことかよくお判りのことと思ひます。

幼稚園教育の本質から考え、その目標達成のためにも、又幼児は社会性の芽生える年齢の上からも、新学前二ヶ年の幼稚園教育が是非とも必要であり、最も適当と考えられます。

近年幼児教育の重要性に鑑み、なるべく多数の幼児に幼稚園教育を与えるために、公立幼稚園に於ては一年保育の者を優先的に入れる傾向が見受けられます折柄、二年保育を建前とする私立幼稚園に於ては、更に施設の向上、教育内容の充実に努力して居ります。

尚、私立幼稚園には私立としての独

自性が考えられます。

或いは独自の教育理想を掲げて、或ひは宗教教育を以て行はれる場合もあります。

又、特殊な音楽教育や体育等を採用する場合も有ります。(もとより何処までも教育の本質を外れてはなりませんし、行きすぎは、戒められなければなりません)

家庭の理解と協力が必要ですが、幼稚園としては有りがちな、親達の虚栄心や利己心に迎合することなく、幼児を通しての上に深い影響をもつ家庭教育の指導に迄及びたいと思ひます。

勤めをもつ母の留守を近隣に遊び友達もな  
いままに、想像の幼稚園に通ひ、想像の友達  
「あきらさん」や「よし子さん」と遊び暮し  
た私の子供が、いよ／＼思ひが叶つて現実の  
幼稚園に通える様になりました時の喜びは、  
誠にいじらしい許りでした「幼稚園で一番う  
れしいこと」は、ブランコでも砂場遊びでも  
人形芝居でもなく「お友達と遊べること」と  
ためらわずに答えました。

幼児が家庭の外に友達を求めて遊ぶ様にな  
りますのは、その心身の成長発達、特に社会

性の芽生えに基づくものであり、集団  
生活への参加の要求は非常に強いもので  
あります。

幼稚園は幼児の正しい成長発達に適  
切な生活環境として、幼児に集団生活  
をさせる所です。「先生、御本見ても  
よろしいですか」初対面の先生にも笑  
顔でも、云える子、高く積み上げて  
はくずし、家になり、汽車になり、積  
木遊びに余念のないグループ、手をつ  
ないでブランコへ、江り台へと元気よく駆け  
出して行く子供達。心身が正常に發育し、又  
近隣の友達との遊びを通して社会性の発達し  
て居る幼児は、新しい環境にも容易に馴染む  
ことが出来ます。

けれど大多数の新入園児にとつては個々の  
家庭生活から幼稚園と云う集団生活への環境  
の激変が、その幼い心身に大きな影響を及ぼ  
さずにはおきません。

登園の日を指折り教えて待ちながら、いよ  
／＼その朝になると行き渋り、幼稚園の門前  
で足ぶみし、母にひし／＼と寄添うて少しでも側  
を離れ、ば泣き呼び、或いは無言のまゝ、遊び  
の仲間にも加はらず、たゞぼんやりと眺めて

居る許りの子供達、更には不眠、食欲不振、発熱等身体障害さえ惹起す者もあります。此等は、多く一人児末子等家庭に於て世話をされすぎた子供、社会性の発達の不十分な幼児に著しい現象です。

中には亦、乱暴に友達遊びの妨害をしたり、共同の遊具を独占したり、所謂がき大将やいちめつこの存在も見受けられますし、何くれと友達世話をやぐ女児もあります。この様に家庭から幼稚園へのうつりかはりは同じでも、その反応の仕方や度合はひとりごと異つて居ります。

そのさまざまの子供達を無理なく集団生活に導きよるこんで集団生活をさせるには——  
一日も早く先生を中心に園児達みんなの仲よく楽しい幼稚園にするには——  
年毎の春に新入園児を迎える私共保育者のそして貴女方お母様の何より先づ心をくだくのは、このことであります。

それには、はじめに幼稚園の楽しい環境を考えて見ましょう。

春を迎えて今をさかりの花を咲か

せ、或いは若芽の緑もつや、かな樹々、先生と子供達との丹精が育てた赤・黄・紫色とり／＼の草花、池の金魚やお玉じやくし、鳥籠の小鳥も兎や山羊もみんな子供達の愛撫を待つて居ます。

小山や芝生やお砂場ブランコ、こり台、子供の大好きな遊び相手です。

明るく清潔な園舎、上品にしかも魅力的な装飾された保育室、机も椅子も子供のために作られ、大きな積木、ま、ごと道具、人形、絵本等々、之等は先づ或る子供達の心をしっかりと捉えることでしよう。

けれど何よりも先生の細やかな愛情をもつてひとり／＼に向けられた臍は無言の訴えをもよみとり、明るく優しい笑顔と差しのべられた温かな手が、子供達の不安をとり去つてくれましょう。先生に「みとめられている」「まもられている」その安心感が安定感をもたらし、すべてはその上に築かれて行きます。

子供をいつも集団としてのみ取扱うことは必ずしも愛情の公平な分配ではありません。

幼児教育に対する充分な理解と、溢る、許りの愛情をもち、周到に用意されたカリキュ

ラム(保育計画)に基づいてひとり／＼を指導される先生ならば、子供達は本当に幸福です。この様に先生は先づ自分をも含めた幼稚園の環境を楽しく明るく整えて子供達を迎えましょう。

お母様方は、幼稚園は楽しい所、先生は優しい方と、子供の心に呼びかけて頂きたいものです。

(入園前にも、子供を中心にお母様と先生との楽しい一日のつどいをもちたいと思います) 幼児がはじめて体験する集団生活に、一日も早くよるこんで参加することが出来る様お母様方の配慮を切望致します。

云うまでもなく幼稚園教育には家庭との密接な連絡と協力が大切なことです。先に申しました一人々々の指導を行う上からも、先生は園児の一人々々の家庭環境、心身の発達状況健康の記録特質傾向等を、家庭との連絡により知つていなくてはなりません。

殊に子供が望ましくない性情や傾向を示す場合、例えば、仲間に入れなかつたり、仲間をかき乱したり、うまくものが云えなかつた

り、神経質や其の他種々社会的或いは情緒的に不適用を示す子供は、夫々の理由をもつています。それが躰のあやまりのためか、それとも精神的身体的の異常のためか、家庭と園との緊密な連絡のもとに原因をとり除かなければなりません。

幼児を中心に幼児の幸福を念願する幼稚園と家庭とが、相互の理解と信頼により手をつなぎあつてこそ、幼稚園教育の効果を挙げる事が出来るのです。

家庭の協力は躰についても同じ事です。

幼稚園に於ては、楽しい集団生活の経験を通してその中に協同及び自主自律の精神が養われて行きます。幼稚園を「何時もみんなの明るく楽しい社会」とするためには「幼稚園のきまりを一人々々がよく守らなければならぬ」と云ふことを、子供達が充分納得する様に導かれなければなりません。

社会的人格の基礎は幼児期に於て培われます。集団生活の躰は入園第一日より始められます。

例えば、

一、挨拶の仕方

一、持物や衣類の整頓

一、共同の遊具や玩具の取扱い方及びその後の始末

一、手洗ひ場や便所の使い方

一、自分のことは自分で始末出来る様にする

こと

一、みんなと仲良くすること

一、他の迷惑ならぬ様にする

一、自分の思ふことをはっきり話すことが出来る様

一、先生やお友達の話は最後まで落着いてよく

きくと云ふ態度

お母様に限らず、お父様も祖母様も家族の皆様が心を併せて幼稚園の教育方針を実行して頂きたいと思ひます。

最初からよい習慣を充分にしつけること

そしてよい習慣はよい習慣の行われる環境

に育つことによつて身について行くものである事をよく考えましよう。

前にも申しました様に、入園当時は環境の急激な変化が、身体にも種々の障害を惹起します。子供自身は疲労とは気がつかず、又訴

えることも出来なくて無理が重なり、

身体にも行動にも種々異常を起すことが有ります。興奮状態、食欲不振、睡眠不足等に御注意下さい。新しい環境

に慣れる迄、家庭に於ても園に於ても、細やかないたわりが必要で

す。入園当時の一日々々は、後の十日にも増して貴重な時です。なるべくお休

みさせね様に致しましょう。折角、集団生活に慣れはじめた子供を、不注意

から又ふりだしに連れ戻す様なことがありま

せん様に――

思ふことを尽くせませんが、少しなりと

御参考になれば幸いです。

庭先の花壇の黒い土をもち上げたチューリ

ップの芽生えの、のびのはやさとしずやかさを

――

さながらに幼児のすがたです。

明日の世界の担い手である貴女の子供、私

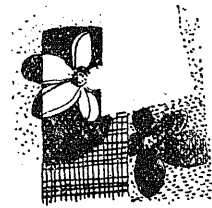
の子供、すべての子供の明るくたくましい成長を母として保育者として心こめて祈りつ、

筆をおきます。

――

(筆者、感応幼稚園教諭)





## 新入園の子供たちに

平井信義

### 一、幼稚園という処

お母様の中には、或いは幼稚園の先生の中にも、幼稚園という処を正しく理解していない方々があります。最近頃に幼稚園に入れる親たちが多くなつて、幼児教育への認識が高まつた様にも思えますが、実は小学校に入る準備教育をする場所、而も有名校への試験準備という考え方が、親達の本心であることが次第に赤裸々になつて来ました。幼稚園の中にも、殊更に準備教育していることをうたつたり、うちの幼稚園からは何処何処の小学校へ何人入つたと準備教育の効果であつた様という先生方が時々見受けられる様になりました。しかもこうした傾向は、伝染病の様に蔓延して来ております。

そのことは子供にもじきに反映して来ています。小学校の入学試験を間近にした子供たちの顔色が急に悪くなつたり、頭痛や腹痛を訴えたり、中には嘔吐を繰返す子供を診察する機会が多くなりまし

た。

幼稚園は、あくまでも子供の心身の発達を助長するために、適当な環境を与える場処でなくてはなりません。「心身の発達」のために最もよいことを幼稚園に望み、幼稚園もそれを実現させることに努力することを専一に考えて欲しいと思ひます。それにそぐわないことは断乎として排除する、という教育者としての気構えがなくては、子供たちを集めて半日を一緒に暮らすなど、恐ろしいことにさえ感ぜられるのですがいかがでしょう。

子供の「心身の発達」は、決して頭をよくすることが主眼ではありません。頭をよくさせようと努力した結果、性質が歪んでしまつている場合が多々ありますし、体をいためつけていることもしばしばあるのです。こころ、からだを含めて、よい「人格」を養うことが何よりも大切なことと申せましょう。殊に私は自分の立場として、からだのことをもつと重視せよ！と叫びたいのです。からだの発育のために、どれ程のことを幼稚園で考えておられるだろうか、口で

はそれを唱えていても施設とか具体的な案になると、どれ程のものを持つておられるだろうか、——それを考えると、我が国の現況はもつともつと努力を要するものと思われるのです。

新入園の子供たちがやつて来るときに当つて、私共はこの問題をもう一度考え合うこと、及び新入園児の両親たちに、「幼稚園という処」を徹底的に認識させることに努力していただきたいと願つて止みません。

## 二、幼稚園に上る準備

幼稚園に上るといふことは、子供たちにとつて、人生最初の大きな誇りといえます。入園許可の通知を受け取つて、入園式までの期間は、子供の心は緊張そのものといえます。子供の心にも増して、母親の心の緊張は一層強いものです。初めて親の手許をはずす、という不安な気持と共に、いよいよ社会人としての正式な第一歩を踏みだす我が子への祝福とが、交互に母親の胸を襲つて来ます。その結果、つい「幼稚園の生徒さんなのに何です」とか「そんなことをすると幼稚園の先生に叱つてもらいますよ」「幼稚園へ連れてもらえませんか」などと、幼稚園を引合いに出しての小言。遂には「僕、幼稚園なんか嫌いだ」「行かなくてもいい」といふ様な言葉を子供に吐かせてしまう——これはこころの衛生にとつては好ましくないことと申せましょう。幼稚園に対して楽しい夢を持つ様に、協力して欲しいのです。

生活習慣ができていくかどうか、これは大体一人で出来るように準備しておいて欲しいと思います。殊に一人つ子であつたり、家中で大事にされすぎている子供には、こころの自立を養う意味でもぜひ生活習慣即ち食べる、御不淨へいく、着物を着脱する——などには世話を焼かない様、——そうした準備があると、初めは泣いて母親の手を離そうとしない子供でも、その状態から早く脱することが出来ましょう。それが又、入園当初に発生し勝ちな「くせ」——例えば、指なめ、まばたき、どもりなどを防ぐことにもなるのです。

予防注射の類は、一応済ませておくことが大切でしょう。幼稚園が伝染病の媒介所であつてはならない。と口を酸つぱくして申しておるのですが、こうした汚名にふさわしい出来ごとがしばしば方々で起つていますから、百日咳、ジフテリア、並びに結核に対してB・C・Gは済ませておくべきでしょう。之らの本当の効力は、注射を了えてから一・二ヶ月しないとあらわれて来ませんから、出来るだけ早めにしておくことが大切です。

同時に健康診断をうけておくことは、あとあとの為になります。ツベルクリン反応はもとより、検便してもらい虫卵があるといわれたならば駆虫をしておきましょう。入園式の当日、虫のためにおなか痛んで、皆と足並みが揃わない様なことがあると、子供の心はくちげ易いものです。薬をのませたら十四も廿四も出た、という例にはしばしばぶつかります。その他、心臓に雑音がきこえないか、目にトラホームの様な異常がないか、体重や身長が平均と較べ

てどの程度か、——など自分の子供のからだについて正しい認識を持つ様に努力して欲しいと思います。

智慧の検査も、出来ればしておくがよいでしょう。殊にちえのおかれている子供が、普通の子供の中に入つて無理な保育をうけた結果、性質までがひねられて、保育にも入らない、室にも入らない、という様なことになつては、その子に可哀想だからです。

異常をみつけたならば、癒せるものは入園までに癒しておきましょうし、癒せないものならば、先生にお話をし、注意をもつて保育をしてもらう様に、先生に話すことも出来るわけですから。

### 三、入園当初の注意

母親と子供の緊張し切つたころをたくみに誘導して、幼稚園という集団生活の中にたくみに溶け込ませるのは、先生方の技術であり、子供のころの衛生にとつて、いかに大切なことか、——それ故、入園当初の教日間は、子供にとつても母親にとつても、又先生方にとつても、いかに大切な日であるかは、申すまでもありません。

すぐれた先生は、あの混沌とした集団を上手に導いて、まとまりのある姿にします。先生の扱いが、先生の笑顔が、先生の声が、いつの間にか母親や子供の心の緊張を解いてしまうのです。いつの間にか、子供たちは安心して切つて母親の手を離して皆と遊び始め、母親もこの先生にお預けしたら、と肩から荷を下した様に感ずるので、私は毎年、この入園当初の先生方の扱いを見ながら、すぐれた

先生の力に魅入られているのです。

之に反し、信頼のおけないところに子供を送ること程、親の不安は大きいでしょうし、親が不安に思つている場処へ出ていく子供の心は当然疲労し易いものです。このころの疲れはすぐに、子供の表情や動作にあらわれて来ます。からだの疲れを呼び起します。夕方になると、豊にからだを投げ出してごろごろするでしょう。翌朝は幼稚園にいきたくないというでしょう。「折角幼稚園に出したのに」と、いいながら、母親はこういう心配の相談を私共医者のところへ持ち込んでくるのです。

何といつても、入園当初は、子供にとつて新しい生活が俄かにひらけたのです。強そうな子供があそび場や遊具を占領していて、手を出していいものやら悪いものやらわかりません。お便所に行きたくなつて、先生に声をかけようとしても、先生は向うを向いていて、声をかけることも出来ません。遂におもらしをしてしまうことにもなります。いろいろ子供のころを築くことが多い時ですから殊に気の弱い子供には、細かく気を配つて扱いたいものだと思います。

この様に、一番問題となる入園当初の問題は、疲労ということでしよう。子供の疲労が保育中に見えないかは、目の輝きや活動の様子によつて判断するより他はありません。むしろ家庭に帰つてからが問題で、その点母親とよく連絡を取りたいものです。元氣はどうか、食欲はどうか、睡眠は……などの点を、連絡帳を利用して理解し合いたいものです。

殊に神経質な子供、ひよわな子供については特別な注意が必要で

しよう。特別な注意といつても先生方がおろおろと大事にすることではなく、むしろ逆に周囲の刺戟から守ること、即ち子供の数の多い幼稚園ではそういう子供のグループが出来れば、非常に高い組織を持つた幼稚園ということが出来ましよう。最初は出来るだけ環境との摩擦を防ぎながら、しかし次第に鍛錬へと向けてゆけば、神経質の子供も、ひよわな子供も立直ることが出来ます。そうした子供にまつわりついて母親がいろいろ口を出し、それにつられて先生方も腫れ物にさわる様に扱うのが普通ですが、医者の協力を得ながらこうした母親から子供を守つてやることこそ必要になつてくる場合がしばしばです。幼稚園生活を通じて、こうした子供こそ立派に育て上げる、という先生方の決意を促したいと思います。

入園当初は何かと忙しく、落着かなく、そのどさくさにまぎれてはしか、百日咳などの伝染病がはびこり、出鼻をくじかれることがあります。最も注意を要するものは麻疹(はしか)で、今年はその流行の年であり東京では目下猖獗を極めています。この病気の病原体はウイルスですが、伝染力が非常に強いので、一人の病児がまぎれ込んでみると、次々にかかり(潜伏期十一日)遂には幼稚園を閉鎖しなければならぬことさえ起ります。その他、水ぼうそう(水痘)やお多福風邪(流行性耳下腺炎)も流行することがありますから、たえず附近の流行に注意をして、予防と早期発見に努力していただきたいのです。早期発見については、どうか先生方に勉強をしていただくたい。既に「幼児の教育」第四十九巻八号以下(昭和廿五年)に略述しておきました。

殊にこの伝染病の流行は、入園当初の母親に、少し位のことでは休ませたくないという気持がありますから、咳をしていたり、耳のうしろが少し位はれている程度だと、幼稚園に出して寄越しますから、どうぞ朝の視診はお忘れなくお願いいたします。

#### 四、その後の指導

入園後一と月目に体重を測つてみますと、減つている子供が多くあります。勿論ふえている子供もありますが、著しく減つている子供があります。この様な子供は、直ちに医者と連絡して精密検査してもらふことが大切です。ツベルクリン反応が陽転してはいまいか蛔虫が湧いてはいまいか、——こうした検査はどの幼稚園でも五、六月頃に行われるのが原則になっていますが、特に瘦せの目立つた子供は直ちに方法を講じるべきでしょう。

疲れがひどかつたり、食欲が減つたり、頭痛、腹痛を訴える子供も、医学的な精密検査が必要ですが、その他、通園距離が遠すぎないか、幼稚園で元気な子供に威圧されていないか、或いは家庭でのしつけがきびしすぎないか、例えば幼稚園へいつたら先生にこうするのですよ、ああするのですよ、とやかましますことはないか——こうした心の疲労では、夜のねむりが浅かつたり、寝言が多かつたり、夜驚が始まつたりするものです。こんな子供には、心の負担を軽くしてやること、小言や躰けることを少くし、或いは組をかえるなどの技術が必要でしょう。からだの疲労——それも病気がないのならば、お昼寝は非常に効果があります。幼稚園から帰つてお

昼御飯を終えたなら、三十分から一時間は横になる様に、子供に約束をしましょう。

入園後の一と月間の子供の状態、殊に疲労については返す返す注意をしていて欲しいと思います。一般的にいつてビタミンB<sub>1</sub>の補給は効果があります。

最後にもう一言聞いて頂きたいのは、幼稚園の先生自身の健康の問題です。新入園児を迎え、それを幼稚園生活の中に溶け込ませるのは大変な努力です。あつちで泣き出した、こつちでもらした、こここではものをひつくり返した、と考えただけで目が廻りそうです。

しかも幼児期に於ける人格形成は非常に重大であり、その指導の任に当つているのが幼稚園の先生です。こうした責任を感じて、先生方は、ついつい無理をして体をいためることがしばしばあるのは、本当にお気の毒だと思います。初めは気が張つているから左程に感じない疲労も、五月六月と子供たちが落ち付いて来たときに俄かにあらわれて参りますから、どうぞ日頃の健康に注意をなさることでそれには何といつてもよく睡ること。但しそれはだらだらと長くねるのではなく、深くねむる工夫であります。ブドー酒の一杯がきく方もあります。或はねる前の入浴とかマッサージのよい方もあります。兎に角工夫をして頂きたい。又、ビタミン類の補給は充分にして頂きたいと思えますし、脂肪、蛋白質、などの割合も上手にとつて欲しいのです。

もし、少しでも具合の悪いことがあれば、直ちに健康診断をうけること。私共も御助力したいと願っています。

(27頁から)

仏教では釈迦の出生された、四月八日を花まつりと云つて、当日は花で飾つた花御堂の中に、手を上下にのぼした誕生仏をまつり、甘茶をかける行事をして居りますが、幼児には非常によろこばれるものであります。

釈迦が幼児の最も關心のある象の居る印度で出生された事、その時は丁度四月の花ざかりの春であつた事は、殊に興味深いものであると思います。そして王子として、順境の明るい生活をされ、すく／＼と成長された事は幼児ののび／＼とした生活と合致して喜ぶものであります。

仏教が悟りの宗教であり、釈迦の一生が誠に奮闘と云う事が少ないのでありますが、神話的面も、教理的面から説かれている事を充分考えて、幼児に話す場合には充分生かすべき事だと思えます。そして釈迦が大胆に現実をそのまゝに正視した事を忘れてはならないと思えます。

### お わ び

一月号、従野先生の「岡山県保育界の今昔」中の、三十三頁、最下段最終行「國富先生は九十余才の」とありますのは、「八十余歳」の誤植であります。

筆者、並びに読者に御迷惑をおかけした事を、深くお詫言いたします。

# 幼稚園と小学校

中 川 武 夫



## 一、教育の連続性

一人一人のこともは、刻々にあらたな生を展開しているが、しかも刻々にあらたになりゆく生は、同一人の生として不断連続的なものである。昨日の花子と今日の花子は全く同じではないが、しかも花子は花子として昨日も今日も連続している。こどもは不斷に変化し発達して行くが、その発達は飛躍的、断続的ではなくて、連続的なのである。

こどもの発達が連続的である限り、発達の助成作用としての教育もまた、連続的でなければならぬ。そこにあらゆる教育が、同一のこどもの発達を中心として相互に密接なる連絡を必要とするゆえんがある。これを学校教育についていうならば、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、の各教育機関は、こどもの発達の程度に應じた、おのおの特有の教育をおこないながら、しかもたてに連続して相互に自然につながるようその教育計画を樹立しなければなら

ない。と同時にのおおのの段階の学校教育はそれぞれ、常に、家庭教育や社会教育と密接に連繫を保たなければならないのである。

しかるに従来の学校教育をふりかえつて見ると、それらは必ずしも完全に連繫を保つていたとはいい得ない。ことに幼稚園と小学校の教育とは、相互に分離した観が強かつたように思われる。幼稚園は小学校やその他の学校とは別のもののように考えられ、その教育機関としての意義が積極的に認められてはいなかつたようである。従つて教育は小学校への入学に始まるというふう考えられ、幼稚園はや、もすると単なる予守機関であるに過ぎない場合もあつたのである。

今や幼稚園も学校系統のうちに積極的な地位を占めるようになりその教育的意義も次第に認識されるとともに、小学校との関連についても次第に研究が進められるようになったことは喜ばしい限りである。しかしこれらもまだその緒についたに過ぎないのであつて、今後の努力にまたなければならぬ問題が山積している。以下幼稚

園と小学校との連絡を緊密にし、相互の教育を一連的にするにはどうしたらよいか、について究明するために、(一)関連的に研究実施されなければならぬ問題点と(二)連絡を容易にするために必要な条件とについて考察しよう。

## 二、連絡を必要とすることから

両者の教育を一連的にするために必要な問題点としては、教育の目的・目標、教育内容、指導方法等があげられるであろう。

### 1、教育の目的・目標の観点から

幼稚園、小学校の教育は、それぞれに特有の使命をもちながら、しかも連続的、関連的に行われなければならないということについては既に述べた。しかるに従来は、ともすると幼稚園はその特殊の一面に傾いて連続的な面をわすれたかのようなのであつた。幼稚園教育の目的や目標は地域社会におけるおのの幼稚園の実情に基いて定められるべきものであり、最も具体的には社会内存在としての、一人一人の幼児に即して考えられるべきものである。しかし又、現下のわが国の幼稚園として一般的なものも規定することも必要である。そしていずれの場合においても、幼児が児童へと連続的に発展することを思えば、それが関連的に考えられなければならないことはいうまでもない。学校教育法第七十七条には幼稚園の目的を同七十八条には目標を規定している。われわれは先ずこれを吟味し、且つこれを同法第十七条及び第十八条に規定せられた小学校の目的、目標との関連において理解しなければならぬ。又具体的に各園の学年の教育目標を設定する場合、小学校入学前の学年においては、

小学校一年との関連において、これを考える必要がある。教育の目的、目標は歴史的社會に生活する一人一人の幼児の具体的な現実に出發して、それがやがて小学校、中学校、高等学校にも發展し、窮極には望ましい人間像にと連なるものでなければならぬ。

### 2、教育内容の観点から

教育目的、目標を達成するためには、これに最も適した経験を用意しなければならぬ。ここに教育内容についての吟味が必要になる。従来の幼稚園教育をふりかえつて見ると、この方面における吟味も不十分であつたと思われる。特に主題の小学校との関連という面から考えると、両者は相互に無關係に近い状態におかれていたといつてもよい位である。最近、文部省が編さんした小学校の学習指導要領において、始めて幼稚園との関連を考慮し、不十分なながらも、これを一体的に考察しようとするに到つたことは極めて時宜を得たものといふことができる。過去においては幼稚園は小学校の教育課程を省みず、小学校は幼稚園のそれを考慮することなく、それぞれ独立的にその課程を考へていたようである。しかも幼稚園は眞に幼児の必要に基く教育課程を考察することなく、やもすれば單なる伝統に従つて、幼児を遊ばせていたに過ぎない傾向があつた。私の最近経験した一例を参考までにあげてみよう。

丁度五月の節句の頃であつた。ある幼稚園の四才児學級を訪問すると、幼児たちは先生の指導のもとに、折紙で鯉のぼりを作つていた。先生の作品を模して、鯉のかたちを大小二つ折り、クレヨンで目、鰓、うろこをつけ、画紙に棒を画いたものにそれを糊づけする作業である。これは大多数のこどもにとつて極めて困難な仕事であ

つた。同じ頃その近くの小学校の一年の教室を訪問すると偶然に同じ鯉のぼりの作業をしていた。ここでは商人によつて既に作られた小さい鯉のぼり——それには、目やうろこは既に印刷してある——を用意し、児童たちは、単にそれにクレヨンで色をつけ、それを小さい竹棒に結びつけるだけの作業をしているのである。五月の節句に鯉のぼりを作ることは双方共に意味があるとして、学習経験の難易の度合や子どもの興味の程度からいつて、たての連関が極めて不自然であることは明かである。ここに学習経験についての研究が一段と望まれるのである。

又一例を数量や文字の経験にとつてみても、過去においては、幼児の現実のいかにかわららず、幼稚園において、この種の指導をすることは、誤りであるとして斥けられ、小学校に入学すると直ちに、これらの指導が教育の中心事であるかの如くに考えられる傾向があつたようである。かと思えば最近のある幼稚園では、幼児の興味や発達はいかんで省みず極めて積極的にこれらの指導をすすめているようである。

これらの点から考えて、今やわれわれは、子どもの実態をできる限り正確に把握し、これを基盤として一人一人の子どもの効果的な発展のために必要な経験をあたえるように、教育課程を構成しなければならぬ。そして幼稚園の教育を効果的に終了した子どもが、無理なく、自然に小学校の課程に進むことができるようにしなければならぬ。そのためには幼稚園の教育課程は小学校のそれとの関連において考えられなければならないであろうし、小学校は幼稚園終了児を入学させる限り、幼稚園の課程を考慮することなしに、そ

の教育課程を構成することはできないであろう。

### 3、指導方法の観点から

指導法においても、それが子どもの発達程度に即応しなければならぬことはいうまでもない。従つて幼稚園では幼児に適した方法が、小学校では児童に適した方法がとられるべきである。しかし幼稚園を終了して、小学校に進む子どもが同一人であつてみれば、その間に大きな間げきがあつてはならないことも明かなところである。しかるに過去をふりかえつてみると、幼稚園においては一般にあまりにも赤ちやんの取扱いがなされ、小学校入学と同時に急に生徒的な扱いがなされたのではないであらうか。

従来我が国教育においては、幼稚園、家庭、社会の別を問わず真に自由をもたない幼児に対して、自由をあたえようとし、次第に自由が発達して来る児童や青年に対してはむしろ拘束を加えようとする傾向をもつていたようである。従つて幼稚園においては、我まま、気ままの甘やかしの扱ひが多かつたように思われる。自由をもたない者に対してこそ、制御を必要とする場合も起り得る。

又その一面、保育という言葉にも示されているように、幼児をいたわり、盲目的に可愛がつて、ある程度自主的に行動できる場合においても、あまりにも親切過ぎ、おせっかひ的なこともあつたようである。自分でできることにまで、手をとり、足をとつて助力するというような場合が多いようである。

これらの点を考えると、指導の方法は、どこまでも、現実の児童の発達程度に即して、合理的教育的に考えられなければならない。そうすることによつて、幼稚園と小学校低学年との間の指導方法上



の連絡も自然になるであらう。

### 三、連絡を容易にするために

右に述べた問題点を解決して、幼稚園、小学校の教育を無理なく連絡させるためには、いろいろの条件、方法が考えられるであらう。次にその二、三の点について考察しよう。

1、幼稚園、小学校の教育について、一連的に一層の研究をすすめなければならぬ。

教育上の問題解決の基盤となるものは、こどもと社会、特にこどもの研究である。そして社会や子どもの必要をみたく、目標や内容がえらばれ、子どもにとつて興味的な方法によつて学習させるよう工夫することが大切である。これらの点について、学者も実家も一体となつて、一層の研究をすすめなければ、両者の連絡を根本的に解決することはできないであらう。従来、幼稚園教育についての研究は小学校のそれに比して、一層低調であつたことを思う時、幼稚園教育に従事する者は、実際の立場からこれらの研究に協力するとともに、研究的に教育を実施しよう心がけねばならない。

2、幼稚園、小学校は互に他の教育についての理解を深めなければならない。

幼稚園の教員は小学校の教育を理解せず、小学校の教員は幼稚園の教育を理解していないのが現状ではあるまいか。これでは関連的教育が行い得ないのは当然である。相互に理解を増すためには、次のような点に心がける必要があるであらう。

(1) 両者が合同して研究団体を組織したり、研究集会、研究協議会

等を持つようにする。

(2) 研究会等の際は、できるだけ、学校訪問や幼稚園訪問をして、それぞれの教育の実状を観察する。

(3) 幼稚園の教員が小学校の、小学校教員が幼稚園の、教育経験をもち得るようにする。場合によつては幼稚園終了児を担任した教員が一年生に持上り担任することもできるようにする。

このためには幼稚園、小学校の教員の資質、資格や待遇を同程度にする必要がある。従来はこれらの点において幼稚園の教員が低位におかれるとともに幼稚園教育が低位におかれていた。将来においては、幼稚園教育の積極的な意義が十分に認識されるとともに、教員の資質、待遇等においても小学校と同程度以上にならなければならない。

このように考えると教員養成制度が一層充実させられなければならないであらう。幼稚園の教員も小学校のそれと同様に教員養成を主とする大学において養成されるようにならなければならない。又現職の幼稚園教員が諸種の現職教育機関を利用したり、自己研修に努めたりして、自らの資質向上に精進することも極めて必要である。

(4) 過渡期としては、小学校に幼稚園を附設したり、併設したりすることも、相互理解をます上に都合がよいであらう。このことは一定条件のもとに実施されるならば、現下の財政状態からいつても、好都合と思われる。

3、幼稚園終了期、小学校入学期の教育計画に、最長の注意をはらすことが望まれる。

日常において両者が関連的な経営をすすめることは、いうまでも

なく大切であるが、特に接続期における経営には一層の注意を必要とする。

(f) 幼稚園としては、指導要録その他子どもの理解に必要な資料を整え、これを小学校に提供するようにするとともに、幼児が安心して楽しく学校に進むことができるように指導しておく。

幼稚園は小学校へ進むための準備教育機関ではないから、一部の幼稚園に見られる如くいわゆる特定の小学校に入学させるための準備教育に忙殺されるようなことは、断じて控えなければならぬ。しかし幼稚園終了児は必ず小学校に進学するものであるから、彼等が心安く、不便を感じることなしに、小学校生活に適應できるように指導しておくことは必要である。

そのためには又小学校が幼稚園生活における新入学生の終歴を容易に理解することができるように、一人一人の子どもについての詳細な記録を資料として提供することが必要となるのである。これには幼稚園としての希望や意見等を附記する事も望ましいであろう。

(g) 小学校としては一年生が学校生活に無理なく適應できるように工夫しなければならない。

その為には、幼稚園より提出せられた児童についての諸資料を児童の入学前によく調査し、必要によつては幼稚園とも連絡して、なるべく詳細、適確に児童の経歴について理解しておかねばならない。入学児童の学級編成に際しても、幼稚園終了児と然らざる者とをえ考、特に注意すべき事項が認められる場合には、これが解決に努力し、適正なる方途を講ずる必要があるであろう。

#### 4、幼稚園教育を普及徹底させ、小学校入学児童は大部分幼稚園

終了児であるようにする。望み得るならば幼稚園一カ年を義務教育期間とする。

思うに今日幼稚園教育の徹底化をはばみ、又小学校との連関を不充分にしている一原因は、小学校入学児の一部分のみが幼稚園終了児であるところにある。経験を大きく異にする二種の児童がいることは、小学校の教育計画をかなり困難にする結果、小学校ではともすれば幼稚園を終了しない児童を中心としての教育計画を立てることになり、一方幼稚園においては、かかる小学校教育を予想して、極めて消極的なる教育計画を実施するに過ぎなくなるのではなからうか。もちろん現下の状況においても、われわれは、幼児の必要に基く幼稚園教育を計画、実施し、その基礎の上に小学校教育を計画し効果的にこれを運営する技術と熱意とをもつべきであるが幼稚園教育を受けない児童が少なくなればなるほど、その実施が容易になるであろうことは明かなところである。

この点から考えると、幼稚園が全国的に増設され、やがてはそれが義務教育機関となるよう望みたいのである。現下の財政状態からすれば、小学校に幼稚園を併設することもよいのではなからうか。

このようにして、幼稚園教育が一層普及徹底し、小学校教育又従つて中学校教育と一体となつて、國民の基礎教育としての自らの使命を果すことができるならば、文化國家の建設も期してまつべきものがあるであろう。それにつけてもわれわれは教育の推進力としての教師の責務の重大さを自覚し、真に強力なる教育精神と科学的なる教育技術によつて、如上の諸問題の解決に言らなければならない。

(筆者、東京学芸大学附随竹早小学校長)

## 児童相談部開設のお知らせ

当研究室におきましては兼てより児童相談室の開設を企図致して居りましたが、今度桜蔭会館の一室を借用して児童相談を開始する運びとなりました。

当相談室では幼児並びに児童についての色々な問題の御相談に応じ、皆様に正しい育児法を實行して戴くお手伝いを致し度いと思つて居ります。

皆様と一緒に子供の困つた問題が解消し、健全な発達を促進され、健かな、幸福な子供が一人でも増えますならば、私達の喜びはこれに越したことは御座いません。

御子様について、心配なこと、困つた事がありになる方は一日も早く御相談においで下さい。

放つておけば、子供は益々不幸になり、後になつては、なかなか矯正出来ない場合が少くありません。

★ なほ私達は、この児童相談の仕事を通じて従来の成果を實施に生かし、またこの経験を今後の研究の役に立てたいと思つて居りますので、皆様の理解ある御協力をお願い致します。

★ この児童相談室は、出来るだけ多くの方に利用して戴きたいのですが、目下のところ、場所が狭いために一度に多くの方の御相談に應ずることが困難で御座います。それで誠に恐縮で御

座いますが、相談御希望の方は、その旨を電話若しくは往復葉書で御一報願ひ、当方より御通知申上げます日時において願ひ度いと存じます。

### 一、連絡先

文京区大塚町三五

お茶の水女子大学児童研究室内

児童相談部

電話大塚(86)一四一〜一四四

### 一、相談日

毎週水曜日 午前九時より正午まで

### 一、事業内容

知能検査 性格検査 其の他の臨床診断テスト

進学相談 教養相談 健康相談

### 一、相談担当者

牛島 義友 平井 信義  
松村 康平 水原 泰介

お茶の水女子大学児童研究室

# 幼児に釈迦を

## 如何に語るべきか

笠原秀定

仏教童話の中には歴史的なものと、伝説的なものがあります。その取扱いは仲々むづかしいのであります。

仏教童話も童話であるから、必ずしも歴史的に真実でなくても差支えないのであります。然し事実上は歴史的でなくとも、精神的には歴史的でなくてはならないのであります。云いかえてみますとその話が伝説にすぎなくとも、その伝説のもつ精神が、その時代なり又その主人公の精神なりを、正しく反映していなければならぬのであります。

その意味に於て釈尊の物語りを見ます時に、その中には多くの伝説もあるのであります。それは単に神話として生れたのではなくて、その時代なり、又釈迦の慈悲を説き、平等を説き平和を愛好し、解脱を説く教理の上から生れたものである事に気づくのであります。

釈迦の誕生について経典の伝うる処を見ますと、釈迦は約三

千年の昔に、印度のカピラエ国の浄飯王を父とし、摩耶夫人を母として、王子として出世されたのであります。経典によれば釈迦はこの世に生れる前にトソツ天にいられ、天上の榮華をきわめたのであります。摩耶夫人が満月の夜、高樓で眠っていた時、六牙の白象に托して、夫人の胎内に入る夢を見て懐胎されたと言はれているのであります。そして月満つるに當つて、摩耶夫人は、当時の印度の風習に従つて、長子を親里で産む為、天与城に向つて發足し、途中ルンビニーの花園に休息せられて、無憂華のさんくとした陽光に、咲き競つている一枝を、右手で手折らんとした時、玉の如き王子が右脇から降誕せられたのであります。それは四月八日でありました。王子は生れると七歩歩いて右手を上、左手を下にして、「天上天下唯我独尊」と獅子吼されたのであります。

その時空からは甘露の雨が降りそそぎ、産湯となつて体を洗い、あたりに香気たぐよい、花びらがひらひら舞うて、偉人の誕生を祝福したと伝えられて居ります。

釈迦が前世に於てトソツ天に生れ、時至りて身を六牙の白象に托して、摩耶夫人に托胎して、人間に生れたと云う事は、たゞ之を讀むと、太閤秀吉が、其の母日輪を呑むを夢見て生れたと云う様な、普通の神話的伝説と同じ様にきこえるのであります。之には大いに異つた内容のある事を知らなければならぬのであります。

元來釈迦在世時代に勢力をもつていたバラモン教徒は、天上に生れる事を理想として、その手段として、様々な苦行を行つたのであります。釈迦は種々の方便をもつてそれを打破したのであります。天上の榮華を折求するのは、人間の心が五欲の為に束縛せられているからで、今世に於て、如何に身を苦しめ、行を積んだところ

で、来世に於て依然として五欲の奴隸であるならば、それは本当の悟りの道ではないのであつて、人間として第一に努むべきことは、天上に生れる事ではなくて、地上に於て真人であることであり人類の目標は成仏と云うことであつて、仏とならんが為には、まず眞の人とならなければならぬと云うことから、釈迦が仏たらんが為に地上におり、摩耶夫人に托胎したと云う様に云うことによつて、バラモンの迷妄を打破しようとしたと説くところに、たゞの伝説と異つた深い意味があるのであります。

生れた赤子が七歩歩いて、手を上下にさして、*「我れは世界の最上者なり」*と叫び、産湯は天が感動した甘露の温き雨となつた事も釈迦出世の本懐の叫びを伝えたものであり、偉人の誕生を莊嚴されたものでありまして之を事実と信じた所で精神的には誤りではないのであります。

又幼児時代の話の中にもあります提婆によつて傷つけられた鳩を助けた話も、釈迦の慈悲が動物に迄及んで居る事を説いているのであります。兇悪きわまる提婆のために傷つけられた鳩が、釈迦の胸にとびこんで来たのを釈迦は之を保護し、怒つて来た提婆の要求を強くしりぞけ、傷の手当をして、空にはなしたと云う話であります。が之も史実であるかどうかは知らないが、精神的に見れば決して誤りではないのであります。釈迦の幼児時代の話として、いかにも自然的なふさわしい話で、之をそのまま話しても、決して伝伝の眞実をきづつけるものではないと思つてあります。

以上は釈迦の伝記の一端を考察して見たのであります。が、釈迦の一生を伝伝によつて見ましてもそのすべてが歴史上からも自然で神

話的のものが殆んどなく、又多くの宗教創設者の少年時代は、貧窮偏質怪奇等が付きまとい、そこから出る妖気が、狂信的魅惑の要素となつて居るのであります。が、釈迦の生活は至極常態で、非常に明朗である事を感じるのであります。

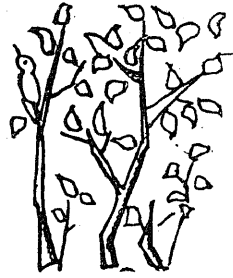
そこで幼児に釈迦を如何に話せばよいかと云う事を考えて見たいと思ひますが、それには又幼児の童話は如何にあるべきかと云う事を先づ考へて見たいと思ひます。

幼児の心理は所謂暱信期でありまして、年長者から示された事について、何等の疑もなくそのまゝ、受容されるのであります。その経験する事柄を、殆んど総て眞と認め少しの疑惑をもたないものであります。又幼児は想像性に富んで居るので、幼児の話に於ては不合理的も許されるのであります。話全体を味うよりも、部分的の興味を持つものでありますから、部分的の興味のある、リズムミカルな点や反復等に興味をもち、話の筋に多少の不合理があつても、気づかず聞き終るものであります。殊に幼児は彼等自身の熟知したものが現れた時に非常に喜びを感じるものであります。ですから話の中に出るものは幼児の知つて居るもので、日常親しみをもちものがよく自分と同年輩の子供である事が望ましいのであります。

宗教童話として幼児に釈迦を語る場合に於ても、この特殊性を度外視して取扱うわけには行きませんので、幼児には矢張り釈迦の幼年時代を話す事が最も興味を持つ事となります。

# 小鳥を飼う楽しみ

— 2 —



高島春雄

メジロ

メジロはウグイスと並んで日本での飼鳥の兩大関といえましよう。スズメより少し小さく、その名の通り眼のふちに白の隈取りがあり、羽はウグイスよりも明るい緑色で、下面は喉の所が黄色でそれ以下は濃褐色になり、その中央部は黄色です。

ウグイスのほうはよく特別製の桐の箱の中に収まり、立派な座敷の床の間に置かれたりして貴族的であるのに、メジロはあり合せの鳥籠に収まって農家の軒先にも床屋の店頭にもぶら下り大衆的な感じがします。メジロは明るい所が好きで、又木の枝に何羽かとまる時隙間なく密接し、もしその中一羽が飛び立つたりすると、すかさず両方から詰めてその空席をなくします。これは籠の中に何羽か一諸に飼つた時にも見られることで、「目白押し」と昔からいわれます。雄と雌、雌同志の時など一層盛に行われます。

陽気な鳥でいつも群を成して潤葉樹の林の中を飛び廻ります。昆虫の卵、クモ、植物の葉に寄生するダニ等微細な動物性の物を啄み、そのほかビワ、茶、ツバキの花の蜜を吸い、ビワ、カキ、アケビ、ウメモドキ等の実を食べるのが好きです。その舌を見ると両縁が多少筒のような形に内がわに曲りこんでいますから、蜜など液体を吸収するのに便利だし舌の先が分裂しているので小さい蟲を拾うようにして啄むのに役立ちます。

鳴声はツウツウで、雄が物に驚く時はキリキリキリキリと鳴きます。蜜を吸つたり木の実を食べる時、互に鳴き合い集つて来る性質があるので昔から餌を置いてその声につられて来たのをもちやはごで捕る事が行われました。

メジロは丈夫で餌に特徴で、水浴びを好みますから水を絶やさぬようにします。秋ならカキ、蒸したサツマイモ、黄粉の練つたもの等を餌にすればよいのですが、長く餌が続けるためには摺餉(三分五厘位)を用いねばなりません。



## ヤマガラ

ヤマガラはシジユウカラに似て大きく、体は主に栗色で、頭の一部は黒く顔は広く栗色がかかった白色、翼と尾は石板色です。

人に馴れ易いので訓練して芸を仕込むことが出来る。いわゆるヤマガラの曲芸です。今でも神社の祭礼或は賑やかな街頭でそういうヤマガラに芸当をさせ、ささやかなたつきにしている人があります。

そのように訓練することは皆さんには時間的余裕のないことはよく判つていますが、しかしどのようにして仕込むかを一応記して御参考に供しましょう。

人間も芸能方面のことは子供の頃からでないと無理が多いのですが、ヤマガラも仕込むのは雛の頃からでないといけません。巢立ちする数日前のを捕えて来て籠に入れて、その籠を飼主のそばに一日中置いて人がすぐそばにいても驚かぬように人が籠に手をかけてもびつくりしないようにしつけるのが第一歩です。次には飼主の手から直接餌を食べるようにするのですがこれが中々難しい。餌はアサの実なのですが、籠の中をきれいに掃除して一粒もそれが残らぬようにし、中にいるヤマガラが腹のへつた頃を見計つてアサの実を割り、中みだけを指先にのせてそつと籠の中に挿し入れます。はじめは恐れてその指先の側には来ませんが、腹がへつてどうにもやりきれないので遂には指先のアサの実に口をつけるようになります。この癖をつけてから今度は籠の蓋を開き、指先を籠から段々離すとヤマガラの餌につられて籠の外に誘い出されて来ます。念の為ヤマガラの翼の片方だけ、或は両方共一枚おきに羽をつみきつて置くから、遠くには逃げられないし、部屋の障子もしめきつて置きます。あ

とではどんな所でも逃げ出せなくなりですがこうして一年位かかつて水汲み、宙返り、鐘つき、おみくじ引き、御幣担ぎ等を覚えさせます。

ヤマガラは教えなくても自身でそり身になつて宙返りをする癖があるので、宙返りをする高さよりも三センチ位も高い所に一本の綱を張つておくと、それが邪魔にならぬように宙返りをします。四五日たつたらもつと高くするという風にすれば、遂には一メートル半も飛び立つて宙返りをする



やまがら

のです。鐘つきは、籠から出て来たヤマガラがチョンチョンと歩いて造り物の鐘つき堂の階段を上り、鐘に結んだ紐を嘴にくわえてならすのだし、おみくじ引きはやはり造り物の神社の拜殿の前まで進み、賽銭箱のような物の中からどれか一枚おみくじを嘴で引き出しそれをくわえて戻つて来る。それを飼主がお金を出した人に渡すという仕組みです。小鳥を仕込むのは外国にもありますが、ヤマガラを使うのは日本人だけだといわれます。

す。オモどのヤマガラでも必ず仕込めるわけではなく、不器用なのもあつてそういうのでは駄目です。

ヤマガラは秋には人里近くに現れてツツピン、ツツピン又はチチベイ、チチベイと鳴きます。

夏は昆虫やその幼蟲を食べ森林害蟲の駆除に役立つ有益鳥です。冬はエゴノキ・シキミその他木の実を盛に食べるので、広い庭があればこういう木を植えることによつてヤマガラを誘致できます。巣箱を架けるとはいることがあるのでそういう住宅を彼等に提供して蕃殖させたいものです。但し今までの例では、巣箱はシジユウカラで占領されることが多くて、ヤマガラを誘うのに余り役に立たないホオジロ



ようです。東京で普通の家の庭に巣箱を設けると、シジユウカラにも利用して貰えないでスズメが占領することが多いのは困りものです。スズメにはわざわざ住宅を提供するにも及ばぬことです。私はヤマガラを飼つたことはありませんが、その道の人の話では、ヤマガラはヒバリと同じように背の高い籠で飼う。もし天井に近く環を吊し

ておくとその環を潜つて宙返りをするのが見ものです。六分位の揮餌のほかにアサの実とか小蟲を度々与え、それに水浴びを好みますから前に記したような方法で水浴をさせねばならないのです。

暑さ寒さに余り強くないので、夏は心がけて出来るだけ涼しい所に置き冬は寒風にさらさぬ思いやりがほしいといわれます。メジロなどに比べれば飼いにくい鳥でしょう。

#### ホオジロ

これはスズメ科の鳥で畑でも雑木林でも原野でもよく見かけます。木のでつぺんにとまつてお山の大将我独りといつた顔で鳴きますが、それは「一筆啓上仕る」というように聞えます。

背面は大体栗赤色で背の羽には黒の軸斑があり、顔は白と黒の条が交互になつてホオジロの名の起りになりました。

南原繁氏が東大総長をなさつていた時、日本に來た米国の然るべき御方に記念として日本画の懸軸を一幅進呈されることになりました。図柄は夏蜜柑のなつている枝に一羽の鳥がとまつているもので画家の名は今想ひ出せません。これを贈呈するときと鳥の名を訊かれるに違いないからはずきりさせて欲しいという総長の御希望で、東大の先生の一人がそれを持つて私の所にやつて來られました。それがこのオホジロだつたのは面白いことでした。

雄は春から夏にかけて樹木の頂に陣取り、危険でも迫らぬ限りかなり長く鳴き続けています。秋から冬にかけては頂でなく低い所に移つて鳴きます。その鳴声は「一筆啓上仕候」のほかに「ちつぺ死んで四十九日」とか「丁稚鬚づけいつつて」「源平つつじ白つつじ」などの反訳があります。チツチロ・チロチロ・チツチロチとい



う声人が人により様々に耳にはいるわけです。小鳥ではないが今は東京にも沢く棲息するようになった支那原産の小椋鶏(コジュケイ)も東京ではその鳴声から「ちよつと来い」の通称を得たくらいで、人によつてはワンツースリーとも people train と聞えるといひます。ピヨウイ、ピヨウイと音高い声で繰返し鳴くのを皆さんもおおきになつたことがあるでしょう。

ホオジロの巢は四一五月頃茅原や雑木林の中で見つけることができます。人の背だけ位の高さの所に細い枝で編んだ碗状のものです。

飼うには播餌、播餌の何れでもよく、飼い易い鳥であります。

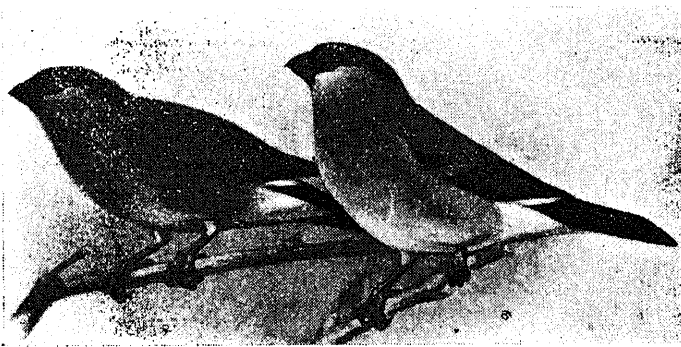
## ウソ

ウソという鳥が本当にあるのです。渡り鳥で日本には冬に群になつてやつて来ます。スズメ科のものでスズメより大きく、嘴の太く短いのが特徴でその色は黒く、雄では頭は黒く頬から喉にかけて紅色で背面と喉以下の後面は青色です。雌は喉の所が紅くなく灰色です。羽の色に色変りがあつてそれを昔からアカウソ、テリウソなどといつて珍重したものです。

細く静かで高尙でヒーヒー又はヒーホーと聞えるので古来その声を受されます。果樹の蕾を食べ又サクラウメ・ツツジ等の蕾や花も食べます。自然状態では夏は日本にはいないのですが、禽舎で飼えば巢引もします。アサの実・ヒエ等の播餌でも播餌でもいいといわれています。

筑前太宰府の天満宮にうそ替という名高い行事があります。それを序に御紹介しましょう。鳥に関する土俗玩具は数多くありますが

ウソのもあつて多くは木彫です。長さ八一九センチ、径四センチ位が多いといひます。太宰府の天満宮は勿論菅原道真を祀つた杜で伝説によるとその普請の時たたくさんの蟲が出て来て木材を食い荒し職人の仕事を妨げるので困つていたところ、どこからともなくウソ



ウソが現われてそれらの蟲を片つ端から啄み食べてくれた。それによつてウソが天満宮や管公と縁の深い動物になつたのだといひます。ある一地方に害蟲が大発生して害を逞しくしている時、その天敵となる鳥がどこからか多数飛来してこれらの蟲に大打撃を与えることは西洋にも東洋にもいろいろ実例があること故全くの作り話とも思われません。さてこのウソ替ですが、本家の太宰府天満宮で行われるのは毎年一月七日の酉の刻(午後七時頃から九時半頃まで)で、この時には九州各地はもとより四国や中国地方からも参詣者が集つて数千人に達するそうです。参詣者はめいめ

い木彫或は板(木片)のウソを袖にかくしてウソ替の始まる合図を待つていると、刻限が来てあたりの電燈は一齣に消され、薄闇の中で人々は「カイマシヨウ(替えましようの訛)」を口々に繰返し呼びながら、すれ違う人の誰かとウソを交換するのです。そうしているうちに神社の神職十二人が参詣人に変装して三十分置き位に金のウソを一つ宛持つて群集に粉れ込みこれとは思う人(つまり眞に神信心に篤いらしい人)を見つけてその人のと金のウソとを取替えるのです。その時神職は今の金のウソだと知らせ、その人を社務所に案内して神酒を酌んで帰すのです。金のウソを受けた人々は非常な幸運が来るものと伝えられ、そういう十二人の幸運者は人々に羨まれるわけです。しかしこの幸運者の中にはいるのは容易なことではなく一般の人は自分のよりも大きく立派なウソが手にはいれば、それを幸運にしているようです。金ウソは長さ二センチ、径一センチ位の小さいもので少くとも金メッキはしてあり美麗なものだといわれます。

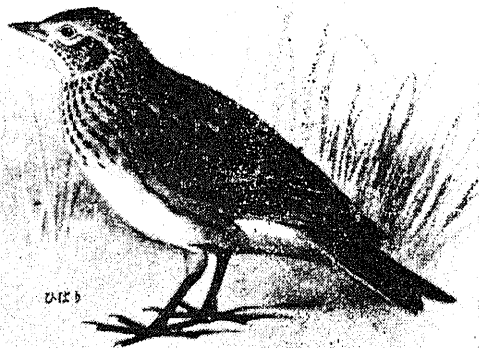
## ヒバリ

ヒバリは日本のも歐洲のラークも一つ種類ですがそれぞれの地方で大きさや羽色に多少の差異がないものではありません。

羽色は皆さん御存じの通りですが枯草の色に似ているのでその姿を見つけない。いわゆる保護色として役立つことでしょう。雄と雌とは同色で雌のほうが僅かに小さいのです。後趾の爪はかなり長くて後趾の長さを凌いでいます。

日本では最も普通の鳥の一つでその習性もよく知られています。木には決してとまらないで原野や耕地の地上を歩きつ、餌を求めま

## ヒバリ



は麦畑によく造られ麦の株に近づけてよく隠れるようにしてあります。尤も巢は草の根や禾本科植物の枯茎などで作った意外に粗末なものです。ここに三―四箇の卵を産むか卵を抱くのは雌だけです。親鳥が飛び立ったり舞いおりたりした所が巢のありかでないことはよく知られています。

食べる物は草の実が主で夏は多量に昆蟲を捕え雛の食物も主にこれです。冬には草の実ばかりでなく耕地に来て雑穀の落穂を拾つた

す。春になつて菜の花の開く頃、いわゆる揚げ雲雀で雌はピーチクピーチク美しく賑かな声を空一杯にまぎ散らしつつ舞い上つて行きます。「見よや揚がる雲雀」と唱歌にある通りです。その特色ある声は色々人語に写されていますが、昇る時は「日一分(ヒイチブ・ヒイチブ)」、降る時が「月二朱(ツキニシユウ)」「などは面白いし「利に利や食う、利に食う、利に食う」は後や流すう」というのもあります。巢

りします。落穂であるから穀類への害はまず問題にならぬ程度で従つてヒバリは私達にとり有益鳥であるし、春先の美しい囀りは私達の心をのどかにし春色を更にこまやかにしてくれるので人生の好伴侶としての役割も見逃してならぬと思います。ヒバリのように鳴く音の長く続く小鳥というのは他に例を見ないようです。

ヒバリを飼うことはた易いが巢引させるのは極めて困難のようです。飼うのは禽舎でもいいし鳥籠でもいいのです。但しその籠は昔から雲雀籠といひ高さ一米に近い細長いものを使います。この籠の中で飛びながら囀るのがいいとされます。更に特殊の技術を要するのに「揚げ雲雀」があります。雛の時代からよくなづけたのを籠に飼つておき、時々野原に持つて行つて籠から出す。ヒバリは雲井はるかに飛び上り盛に囀り舞うが、終つて地上に降りた時は籠に戻つて来ます。地方によつてはヒバリの愛好者仲間の集りがあつて鳴合せ会、揚げ雲雀会などコンクールが行われます。それは晴れた無風の日に土俵を作りそこに選手を一羽ずつ持ち出して順に飛ばせて競演させる。最も長く鳴き続け且つ土俵にまつすぐに掃つて来たのが優勝者となるわけです。

餌は播餌と青菜でよく、夏には蟲を多く与えるようにし或はその代用として三―四分の弱い摺餌でよいようです。それから砂浴が好きなので、それのできるように底に砂を敷いてやらねばいけません。

こういう野の鳥は小鳥屋などでは売つてはならぬ筈なのに売つています。東京の大きい鳥屋などでの売値はメジロが二百円から千円位まで、ウグイスが五百円から千円、ホオジロが二百円から千円、

ヤマガラが四百円から五百円といった具合です。これらの小鳥もいつも丈夫とはいきません。食物に中毒したり冷えこんだりすると糞がいつもと變つて来るし、羽にハジラミ(俗にハムシという)などの寄生蟲がついても弱つて来ます。ハジラミの予防としては時々籠を沸騰して湯の中に入れてたり、そのあとでDDTを撒くようにしたら宜しいでしょう。

カナリヤ、十姉妹、文鳥、セキセイインコ等のことは既に皆さんよく御承知でしようから略します。

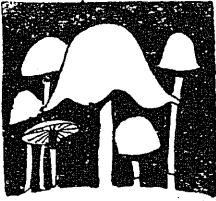
財団法人山階鳥類研究所主事

### お わ び

三月号に掲載いたしました、高島先生の「小鳥を飼う楽しみ」(1)の中に挿入した写真のウグイスは、メジロであります。本四月号に挿入したメジロの写真は、ウグイスであります。右の誤りの為、筆者並びに読者に御迷惑をおかけした事を深くお詫いたします。なお、挿入写真は林野庁編集兼発行「飼鳥掛図」に依ります。

# 保育所の 現状と問題

平野 恒子



## ◇ま え が き◇

保育所と幼稚園については長い間相当に論ぜられて来た。長い間と言つてもそれは百年とか五十年とかいう事ではなく、私の知つている範囲に於いては三十年と言えるであらう。

勿論理論的に言つて保育所と幼稚園とは、はつきり区別出来る。行政的に言つても文部省と厚生省との相違のある事は周知の事実である。しかしどちらにとつても目下の重大な問題は、我国児童の為に「保育所が如何にあるべきか」「幼稚園が如何にあるべきか」ということで、児童の福祉という観点からもこの問題に対して私は限らない興味をもつ者である。殊に保育事業は私の終生の仕事であるが一生かかつても猶これで満足という世界はないと思つてゐる。それ故、昔から今に至る迄の或は将来の日本及び世界諸国の、これに関係ある人皆に対して非常な興味と期待とをもつ者である。

## ◇現 状◇

最近保育所がその使命を果す為に、国家的

性格の基礎づけを得て来たことは誠に目出度い。第一回全国保育事業大会が昨年始めて開かれたり、各都道府県に於ける保育事業研究大会、保母、園長の現任訓練、保母の資格、施設の最低基準等も示されるに至つた。

第二次世界大戦中我国に於いても戦時保育園が出征家族及び軍需工場等に働く婦人達の為に、多数設けられた。戦後に及び更に多くの保育所が設置されて、今もなおその数は増し行くようである。恐らく現在約五千の保育所があるのではなからうか。

## ◇問 題◇

保育所と言えばその対象は乳児から学童までの広い範囲のものである。乳児を終日預かること、一才から三才までの幼児を扱うこと四才から学令までの児童を保育し、更に学童に対しても必要に応じては保育所に於いて家庭生活或は社会生活の補足をなすべきものである。法律とか基準とか理想とかいう素晴らしいものが戦後出来上つたとしても、さてそれでは現状の保育所が子供達の為にこれらの事を満しているであらうか。

先ず第一に年令から見て、乳児及び幼児

(二・三才児)を保育するのにどれだけ設備があるかという事は、むずかしい問題である。単に設備の問題のみでなく、経費及びそこに仍く職員でさえも非常に貧弱ではないであらうか。私は一九五〇年から一九五二年にかけて、米國とカナダに行つた時、幸にも幼児教育、児童福祉事業について視察することが出来た。

一九五〇年の白亜館會議に於いて、ナースリースクールについては一議案として大会で協議さえ行われた。つまり教育の課程に於いても二才から四才までは、その為人に極めて重要な時代であるから、幼稚園入園以前の正規の課程として一般に取り扱つて欲しいということであつた。

又児童福祉關係に於いても保育所と言へば大体このナースリースクールの型から行われている。これは公立小学校には殆んど公立幼稚園が附設され、小学校に入る前に大体の幼児はここに無料で入園出来る事が大きな影響となつていふと思う。そして保育所に来てゐる子供も孝令一年前には保育所から近くの公立幼稚園に、通うという事もしていた。

今日の日本では保育所の子供が無料の公立

の幼稚園に通うという様な事は、考へてみる事も出来ない状態である。

又あちらでは学童にしてみても、午前なり或は午後の小学校の課程なりをすませて保育所に帰る、栄養の豊富な食事やおやつを頂き母が帰るまでグループによる指導を受けて愉快な時をすごさせる事が、保育所の使命の一つとなつてゐる。

又一人の子供に対する取扱いについて言ふならば、公立であろうと私立であろうと、市の児童課から心理学者や精神衛生家が来て問題の子供の為に研究や指導をしたり、児童の保健衛生の為に衛生課から各月一回医師、毎週一回訪問看護婦が派遣されている。その他家庭との関連並びに地域社会とのつながりという事によつて、如何に一人の子供を幸福にさせる事が出来るかが綿密に考へられてゐる。又経営の面に於いては州、市町村、共同募金、有志者等が非常な援助をなしている様である。一体一人の子供を保育する為にどの位のお金が必要なのであろうか？

現在の日本では保育料といへば殆んど保育所が四〇〇円から五〇〇円、給食費二〇〇円を定めてゐるのが普通のものである。それ

も極く最近給食費は二〇〇円になつたのでそれまでは一〇〇円であつた。この費用で子供のよい保育をしようとするならば理想と相当の開きが出て来るのではなからうか。

「保育に欠けた」児童を終日預かると言うことに對して、社会、大人は一体何をしなければならぬであらうか？

カナダのトロント市に於ける一公立保育所では一人の子供に市が一日三ドル支給してゐる。それ故子供の為に朝は七時から夕方の七時まで保育する事が出来る。朝来てから軽い食事、お昼には一日に於ける最もよい食事、更に夕食までもその子供達に与える。

長時間の保育であるから保母は出勤退所の時差を實行する事が出来るし、資格のあるよい保母をよい待遇によつて多く頼むことが出来る。

又児童に對して午前中小憩を午後は長い昼寝をさせる事が出来る。子供達が長い間保護者から離れた生活も何等無理のない様に見える。

隣には公立の幼稚園があつて保育所から出かけた子供達はお昼には再び保育所に帰つて先生から温い食事を頂いてゐた。

日本の現状即ち年令の差を斟酌せず、施設に於いての個性の無い保育、地域社会との関連のない、従つて措置児童なども度外視し、保育所の最低基準などは糊に上げてしまつた保育所と比べたら、いずれが真に児童の為に福祉がもたらされていと言えようか？

最近私は度々他府県に招かれて行く都度、その県の保育所の現状を伺つて来るが、県と保育所とが協力して進歩する様に努力している事はよろこばしい。大体かかる県は嘗ては保育事業が余り進歩していなかつた所が多い様である。それ故公立と私立とがその監督も非常に新しい感覚を以つて児童の福祉の為に努力しておられる。しかるに神奈川県の如きは公立の七倍にも及ぶ私立保育所があり、その中には児童福祉が第一目的なのであるか大人の満足感が第一なのであるか分らない様な所さえあると聞き及ぶ。

ここ二三年措置児童の問題は非常な関心の的になつて来たが、この措置費及びその取扱ひ方についてはかなりの問題が投げられている。例えば一〇〇パーセントの措置児童を扱つているとしても児童を一括して、その金額が非常に低い場合もあり、或いは措置児童数

が五〇パーセントであつてもその大部分が一部負担の児童にすぎない場合もある。終戦後の麗しい出来事の一つに、共同募金の運動が私立の事業の為に始められた。この運動は既に四年を経過したものであるが、米國、カナダに於いてはこの助け合ひの仕事は厳密な調査研究の委員会を通して、各保育所から提出された予算に対する確実な援助を与えていゝる。私は日本の國の現在に於いて、共同募金がかかる積極的な援助を各保育所に与える事を願つてやまない。

次に施設について言うならば、あちらに於いても素晴しく進歩したものとあるとは言えないが児童局が示すところの保育所の最低基準に日本の保育所が全部到達する事は望ましい事ではなからうか。

先日或る会合の席上、幼稚園の教諭を一年間訓練する養成校の必要が叫ばれていた。その理由の一つは二ヶ年の養成所を出た者の数が足りないという事と若い婦人は大体二、三年で結婚してしまふからということであつた。私はようやくこれまで進歩させて来た我が國の幼児教育の世界に於いて、再びそこで教諭の資格を下げたくないという事と、二

三年で嫁に行くのは結構だが、その後十年も十五年も経つて幼児教育の世界に帰つてもらう為にも正しい教育の課程は、ふむべきものであるという事を主張したのであつた。現在我が國では保育所の保母は、二ヶ年の課程を経たものと試験によるものとがある。わずかな私の経験から見ても、試験によつた保母のこの仕事に打ち込む者の数は極く少数であつて、保母の最大目的とする児童福祉に関することにさえも興味がうすい様である。私はいづれの日にか大學を出て更に専門の課程を一年ふんだ者が保母になる様な時代が来てほしいと思ふ。何故ならば保育所の最大の目的は各児童の人格の基礎づけをなすという非常に重い責任を帯びているからである。又同時に園長もこれについては深いつつしみを以つて自らを修養し、この尊い事業の経営に當るにふさわしい者とならねばならない。

あれこれ考えると日本の現状に於いて保育所の問題は数限りなくある様である。そして日本ほど多数の児童がいて、保育所の必要な國は少いと思ふ。これは単に保育に専念する者の責任のみでなく國をあげての重大な責任と言えらると思ふ

◇むすび◇

私は過ぎた四年間神奈川県最初の教育委員の一人であつた。この仕事は保育事業にたずさわる者には、非常な関連性もあり興味深く多くの事を学んだ。併しこの世界に入つても思ふことは、児童の問題に関して大人があまりにも大人本位の行政と實際とを何の疑問も抱かず、平然と行つてゐることである。

私共大人にもつと児童の前に謙遜と忠誠とを以つて、真に子供の福祉をもたらしすことを考え、これを行いたいものだと思う。彼等を二十年三十年後に立派な社会人とならせる為にはもつと人間的なよい躰をなし、国際人としての豊かさをも幼い時から養わせねばならぬ。

新しい日本人、国際人という意味は特に幼児の保育にたづさわる者に、今迄以上の深い意味と重い責任とを与えてゐると思う。

(筆者、横浜保育専門学院院长)

生徒募集

一、修業年限 二ケ年

一、卒業後の資格

児童福祉法に基く保母としての資格を附与する

一、應募者の資格

高等学校卒業者  
通常課程による十二年の学校教育を修了した者、又は  
文部大臣において同等以上の資格ありと認定した者

児童福祉施設で二年以上従事した職歴をもつ満十八才以上の女子  
其他厚生大臣において認定した者

一、應募に必要な書類  
入学願書  
履歴書

卒業学校成績証明書  
身体検査書(各保健所発行のレントゲン検査証を添付)

写真

一、其他詳細は直接御照會下さい

院長略歴

明治三十二年二月出生、昭和四年四月中村愛児園並相沢託児園々長に就任、昭和十年春光園母子寮、昭和十五年本校(横浜保育専門学院)の前身たる横浜保母学院を創立、昭和二十一年高風子園、高風保育園を設立、同年八月財団法人白峰会を設立、理事長に就任する



昭和二十三年十月より四年間第一期神奈川県選出教育委員に在任、昭和二十五年十月米田政府より招聘され児童及び青年のため白亜館会議に日本代表として出席。昭和二十六年八月、国連よりカナダに派遣され、児童福祉事業を視察して二十七年一月帰国。同年五月、財団法人を社会福祉と改め今日に至る。

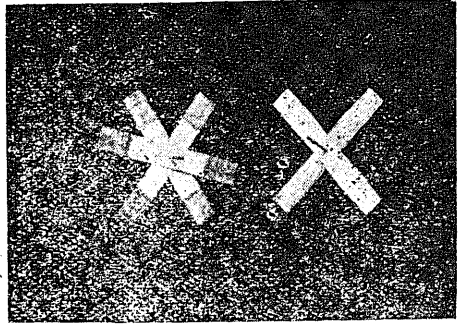
横浜市南区平楽町一三三三

神奈川縣立横浜保育専門学院

院長 平野恒子

# たのしい あしづこ

(こ ま)



及 川 ふ み

幼児の製作への初めの導入については、この「幼児の教育」の一月号に詳細述べたので、重復をさけてここでは省略するのであるが、この号だけの読者の方はその号をお読み下さいれば幸である。

☆ ☆

さて四月はどちらの幼稚園でも、保育所でも新入の可愛らしい幼児を沢山に迎えて忙しい中に大きなよろこびが満ちている。

楽しい、うれしい私たちの幼稚園という感じを幼児自身が身につく様になることをすべての指導の、第一目標として、先生と子どもたちと大いに一緒によく遊ぶということである。

☆ ☆

園庭にあるブランコ、スベリ台、太鼓橋などの運動具もよく使うことは云うまでもない又、新入の幼児たちも、よく知つていそうないレコードもいろいろかけて、新しい生活の不安をさけて、幼児の気分が平になる様心がけ、面白い紙芝居や、人形芝居をみてよろこび、面白い先生のお話を楽しくきくことな

ど、よろこぶ幼児たちの顔を眼前に映して新入幼児の遊びの誘導を考えたいと思われる。この時に製作も亦、外の様子の幼児の遊びの楽しい一つとしてその最初の導入に気を付けて、楽しい幼稚園生活の気分をこわさない様にと願うところである。

☆ ☆

これを実際の面で考えると、先づ最初は「楽しいおしごと」を充分に、こどもたちに理解出来る様に、簡単な手作りのおもちやを数多くつくつて一人一人の幼児たちに与えることである。このおもちやで、充分遊ぶことが先づ最初の段階と考えてよい。

この場合にどんなおもちゃが選ばれるか問題である。勿論目ざすところは、製作への結びつきであるから出来るだけ、作り方の簡単なもの、従つて使うのにも簡単なものがあること、次にその製作についての材料の費用の僅少ですむものということなどが考えられる。要するに遊びに使うおもちゃということで、作る喜びと、おもちゃとして使う喜びをともに考えたいのである。



こんな条件から云うと、ありふれたもの  
はあるが、画用紙や、ボール紙で作った風車  
や、コマなどは望ましいおもちゃに近いもの  
であると云えよう。

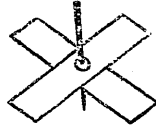
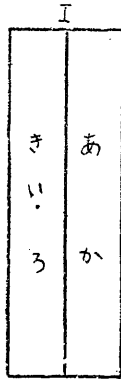
在来のコマとちよつと変つたものをここへ  
あげてみることにする。

材料 白ボール紙(お菓子の紙箱)或は

画用紙

つま揚子

つくり方 I



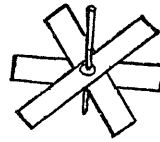
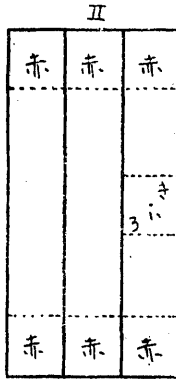
白ボール紙を 幅 一センチ半

長 一〇センチ のもの

二本

一本は赤くぬる、一本は黄にぬる  
二本を直角に重ねて、かさなりに糊をつけ  
て十字にはり合せる。  
中央に小さく穴をあけて、それにつま揚子  
をさしこむ

つくり方 II



幅 一センチ半

長、一〇センチ のもの三本

三本とも、両端二センチ半だけ、赤くぬる  
一本の中央二センチ半だけ黄色にぬる。

中央を黄にぬつたものを上にして、下に残

りの二本を同じ間かくに重ねて、重なりを  
糊ではり合せる。

中央に小さい穴をあけて、つま揚子をさし  
こむ

IIともつま揚子をさしこんだ部分の上下  
に小さいゴム或はごとうの実などでおさえ  
ておくと中心の揚子が出つかりとする。

この二つのコマは、静止しているときと動  
いているときと色が変つて面白い。

及川先生案

たのしいおしごと

第一巻

第二巻

B5版十六枚

定価 四五四円  
一六円

製作は子供達に楽しい興味を呼びおこす  
と共に、創意と工夫をますく發揚させる  
ものでなければなりません。同時に忘れて  
ならない事は製作の環境です。及川先生御  
企案の「たのしいおしごと」は、この目標  
をもとにして、こども達が実際にたのしく  
作り、よく遊んだものをあつめたもので、  
大変に御好評をいただきましたをります。



アメリカ童話から

23

松原至大

強い仔猫

あるところに、黄色の目と黒い鼻をもつた虎猫の仔がいました。とても小さな仔猫でしたが、ライオンのような強い心を持つていました。

ある日のこと、世界を自分の思いどおりにしようと思つて出かけました。歩き出した小道は、一つの大きなこもりとした森に繞いていました。できるだけ頭を高くして、いばつて歩きました。

間もなく一匹の大きな狼に出会いました。「なにをまごまごしてゐるんだ。ぼくはお腹がすいているんだぞ。」と、狼はうなりました。狼がだれかを食べてしまおうとする時は、いつもこう言うのですから。

こうしたあおない時に、勇気を出すことは、ほんとうによいことです。けれども落ちついて、利口になることは、もつとよいことですよ。この仔猫も、そのことを知つていました。そこで少しもこわそうな様子を見せないで元気にこう言いました。

「ああ、狼さん、ぼくは君を探していたとるですよ。ぼくのおばさんの虎さんが、仔羊をローストする仕方を君にきいておいでつて言つたのですよ。君の方が、おばさんよりもよつぽとよく知つていなさるつて、おばさん

が、言っていましたよ。」

狼はそう言われると、うれしくなりました。それでもまだ仔猫の言うことには気を許さないので、こうもいいました。

「おぼさんの虎さんには、こう伝えておくれよ。『仔羊をローストするのは、仔猫をローストするのと同じだ。』つて。」

この言葉は、仔猫をびつくりさせました。けれども仔猫は少しも驚かないふりをして、言い返しました。

「なるほどね、狼さん。君がほんとうにそう言いなさいつて言うのなら、そうしますよ。けど虎おぼさんは、気が短い方なので、君の言つたことをおこるかも知れませんよ。おぼさんには親類の仔猫が、たくさんいますからね。」

狼は顔を洗いはじめていた仔猫をつくづくと眺めながら、

「ううむ。」とうなりました。

「仔猫をローストするにはサルピヤの葉とむねぎを使うとおいしくなるつて言つておくれ。」こう言つてから、狼はぐるりと向きをかえて、森の中はいつてしまいました。

仔猫は道を急ぎました。角をまがると、思いがけなく、その道の上にまたがった木の枝に、一匹の強そうな大蛇がいました。

「ちゆつ、ご馳走を頂こうかしら。」と、大蛇は口をならしました。

あなた方を食べてしまおうとする時は、いつもこう言うのですよ。

「あつ、ボア・コンストリクターさん(大蛇という英語ですが、それがこの蛇の名でした)ですか。」と、仔猫は言いました。「ぼく、すいぶん君を探しましたよ。虎おぼさんが、鳥のつかまえ方を教えて頂こうと思つて

いるのですよ。おばさんは、君が一番上手だからつて、言っていましたよ。そのことで、なにか教えて下さいませんか。」

大蛇というものは、小さな動物をつかまえる時は、いつもおそろしい目で、じつとにらみます。そうするとその動物は動けなくなるのですから。

そこで大蛇は、

「私を見つめておくれ。そうすれば、わかるから。」と言いました。大蛇は、仔猫がまるまるふとついで、これはおいしいなと思つたのでした。

ところが、この仔猫は利口ものでした。大蛇の顔を見ないで、そのうしろの方を見て、こういいました。

「そうだ。虎おばさんがこつちへ来るかもしれない。」

大蛇は、うしろの方から虎にこられてはかなわなれないと思つたので、大急ぎであたりをからだで払いました。大蛇がうしろを向いている間に、子猫は森の中にかくれてしまいました。

元気な仔猫は、どんどんかけて行きました。一本の大きな木を、ぐるりとまわると、虎に出会いました。

今度はこの仔猫も、すつかり勇気がぬけてしまいました。息が切れて、胸がどきどきしてきました。けれどもうまい考えが浮んできましたよ。

「あつ、虎おばさん、ぼく、おばさんを探して、かけてきたものだから、息が切れてしまつた。ぼくのお母さんは、この次ぎの森にいるたつたひとり金色の虎ですが、そのお母さんが、おばさんところの子供は、なにを食べて、あんなに大きくふとるのか知りたがつているんですよ。お母さんは、ぼくがこんなに小さいものだから心配しています。」

こう言つてから、仔猫はじつと息をこらえて、虎の返事を待つていました。

虎はしばらくの間、仔猫を見つめて、においをかいでから、頭を一方にまげて、考えこみました。やがて、なるほど、この仔は、大きさをそちがうが、たしかに自分の子供に、よく似ていると思えました。それから、自分の子供たちは大きくなつてしまつて、今はいつしよにいないのだから、この子を自分の子供として、そだててやろうかなと思ひました。そこで虎は、お母さんのようにやさしく仔猫をなめてやつてから

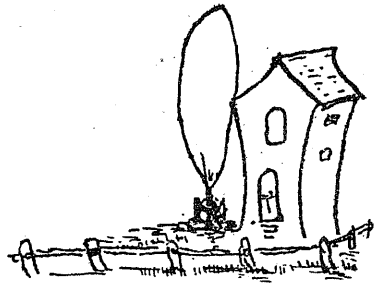
「お前は、ほんとうに小さいね。もし私といつしよにお家にくれば、私がお前を育てて、できるだけ大きくしてあげますよ。」といひました。

二匹は、いつしよに出かけました。仔猫はこわごわながら大きな暗い森を通つて、虎の穴まで行きました。虎はそこで、仔猫にいろいろな肉と骨を食べさせました。仔猫はよく食べたので、だんだんふとつて、りつばな猫となりました。すると虎は喜んで、

「もうお前は、私の子供たちと同じ位になりましたよ。たしかにこの食べものが、お前によかつたのですね。」といひました。

それから仔猫は、その虎にかわいがられて、虎のお家で幸に暮しました。けれどどんなに大事にされても、一匹の猫としてよりは、決して大きくはなりませんでした。

(Peggy Bacon ペギー・ベイコン女史の作による)



## 四月の幼稚園

### 四月の保育

幼稚園……堀合文子

保育所……鈴木とく

堀合文子

桜もほころび、鳥も歌う四月。手足ものびのびと、寒さから解放された春の訪れ。どの人の顔もえみをたぐえ、希望に満ち満ちている。幼稚園の庭にも新しい顔がほころんでいる。

新入園児を迎えた私共も希望に満ち満ちて、お母様のふところから始めて飛出して来た新入園児を「さあいらつしやい」とお隣のおばさんのような、又家庭と同じような暖かさで迎えたい。いかめしい計画もあるが、先ず幼稚園のお母様として家庭と同じような、家のお母様と同じような心持で迎える事が計画の第一でしょう。さあ幼稚園のお母様になりましょう。

年長組になつた園児達も春の訪れと共に希望に満ち満ち、庭中か

けまわつている。新入園児のお兄様、お姉様になつた喜びもつつみきれないようである。

なごやかに幼稚園の一年の歩みが踏み出された。幼稚園のお正月であるこの機会に、私共も、希望を持ち、計画も立てると同時に、自分の頭に塵をかけましょう。とかく、実際に生活する私共は次第に馴れると共に自己解決にはしり、向上に乏しくなるもので、希望を持つと共に、たとえ一頁なりとも心理学でも保育等でも何でもよいひもときます。立派な計画を望む前に、自分を反省し磨く事が四月の大きな仕事ではないでしょうか。

主 題	年 少 組	年 長 組
	<p>○幼稚園</p> <p>大きな主題ですが、家庭よりはじめて社会に出た新入園児に一日も早く幼稚園に馴れて、家庭の延長の場として楽しく生活出来団体生活になれるように四月一杯この主題で通す事にしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室（自分の部屋、年長組）</li> <li>・手洗、下駄箱、帽子掛、庭、遊び室を覚える。</li> <li>・遊具でよく遊ぶ。</li> <li>・自分の引出し、道具箱、クレヨン、鉄、帳面等を覚える。</li> <li>・みんなと一緒に絵をかいたり、仕事をしたりする。</li> <li>・みんなと歌をうたったり遊びしたりする。</li> </ul>	<p>○年長組になつて</p> <p>大きい組になつた喜びと希望を十分に活用させ、大きい組になつた自覚と共に、約束等も共に考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい保育室の観察</li> <li>・新しい道具新しい引出しを覚える。</li> <li>・大きい組になつたらどんな約束をしたらよいか皆と相談して決める。</li> <li>・新入園児に対する約束を決める。</li> <li>・新入園児にお土産をつくつてあげる。</li> <li>・新入園児にうたを歌つたり、ゆうぎしてみせてあげる。</li> </ul> <p>○無 題</p> <p>無計画というのでなくて、春という好季節を充分満喫させるために、戸外遊びを充分にさせ、冬の間ちがまつていた身体を充分にのびし自然にしたしみながら、その中に細かい、例えば製作、ゆうぎ等の計画を折込んでゆきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散つた桜の花びらで首飾りをつくる。</li> <li>・自分で作つた花籠を持つて摘草にゆく。</li> <li>・冬の間手入れてなかつた畠を皆できれいにし種をまく。</li> <li>・春に主題する、リズム遊びをする。</li> <li>・年少組の終りに作つた花やさんを開店、年少組のお客様に売つてあげる。</li> </ul>

導した方がよい。

○自分の引出し、道具類

自分の引出しの場所を覚え、その中にしまつてある道具類も皆で観察させ道具類の目的と使い方を簡単に話しておくこれもその使用毎にこれから指導しなければならぬ。

○庭、遊具

皆で庭を一周りして観察する。同時に遊具も観察し、話合う。

○先生

これは何よりも先に観察してもらわねばならぬ事で自分の組の先生から次第に幼稚園の先生を覚える。

○お友達

始めて社会へ出た新入園児には、お友達とゆう事は大なる環境であり、観察の対象である。よるこぶ人、おどろく人種々でしょうが、生活を共にする人としてお話合いの中に観察させましょう。

○桜

幼稚園の庭にあれば尙結構だがなければ近くの桜をみにいつてもよい。年少では全体的の美しさ、桜という木の観察しよう。

○たんぽぽ

黄色く美しく咲き出すたんぽぽ、色、形、大きさ等大まかな観察でよいかから話合いながらみせる。わたげの所も先に

年少組よりも細かく観察する。

部屋に飾つて身近によく観察させ、花びらの数、花びらの形、色、一重のと八重のとがある。木の表面のざら／＼している所、葉の形等話合いながらよくみる。花びらを針で糸に通して首飾りを作つたりする。

○摘草

近くへ摘草にゆき、土筆、なづな、よもぎ、れんげ等よく観察させたい。

○たんぽぽ

花の形や葉の形の特徴をしらせたい。なるべくとつてしまわぬよう皆のお友達としてかわいがる事を約束する。くきをおると白い汁が出る事、水の中に入れてこまかく先をわるとくる／＼とまいてしまう(ごごじや)等あそんでみせる。



お話	観察
<p>○白 兎</p> <p>○ホコく</p> <p>○富子さんの風船</p> <p>○猫のお見舞</p> <p>○三匹の熊</p> <p>○うさぎとかめ</p> <p>○紙芝居</p> <p>仔猫ちゃんのお日傘</p> <p>ミチちゃんの遠足</p> <p>一寸法師</p>	<p>○幼稚園の保育室、遊ぎ室</p> <p>先づ自分の部屋を覚える、はじめの中は何か目標をつけておくとい。</p> <p>一週間位たつたら他の部屋、遊ぎ室を皆と見学しながら覚える。</p> <p>保育室の中にはどんなものがおいてあるかお家とどこがちがうか等お話しして観察する。</p> <p>○手洗所、下駄箱、帽子掛</p> <p>一番必要な場所であるから、すぐおぼえる。自分の所が何処であるかも覚えさせる。手洗所は見学した時簡単に使用方を約束しておく。</p> <p>はじめの中は手洗所へはいつも附添つて使用方を実際に指</p>
<p>○花咲爺さん</p> <p>○虫の洋服屋さん</p> <p>○ジャックと豆の木</p> <p>○紙芝居</p> <p>たんぼぼの三つの種</p> <p>○人形芝居</p> <p>めんどりと猫</p> <p>—お人形のダンス</p> <p>年少組をよんであげる。</p>	<p>○新しい部屋</p> <p>年長組になつて新しい部屋にかわる。今までの部屋とちがう所、同じ所等話合つて観察する。</p> <p>○新しい引出し、道具類</p> <p>自分の新しい所を覚え、道具類の新しくなつた事も観察し取扱ひ方等約束をしておく。新しい道具で新に希望をもつ人も出来てくるでしょう。</p> <p>○新しいお友達</p> <p>自分達が年長になつたと同時に年少組には沢山の妹や弟が出来た。お姉様やお兄様ぶる人も出来てくるでしょう。年少者に対する態度の約束を話合ひながらする。</p> <p>○桜</p>

らしてみせる。

### ○土筆

東京ではなかなか手に入らないが手に入つたらみせたい。筆の様な形、大きくなると形が変わる事をはなしておく。同時に摘草にゆくと、春にはよもぎ、シロローバー、れんげすみれ等ある事を話す。四月の終りになれば近くへ摘草にゆける位になれてくるでしょう。

### ○皆で今までしつてゐる歌をうたう

家庭でうたつて知つてゐる歌を言つてもらつて順々にうたう。

### ○大きい組のゆうぎをみる

はじめはみせてもらうだけでやりたい人がだんくお仲間入りさせてもらう程度でよい。

### ○ピアノにあわせて歩く

列をしなくてよいから自分の好きな方向に勝手にあるかせてみて、勿論ピアノにあわないから、今度はあはせてあるくようにと約束する。あわせてあるくとゆう事は一番むずかしい事で大切な事である。年長組になつてもどうかずると出来ない人もゐる。が先づこれが大切であり長い期間かゝらねば出来ない事であるから、これからは始める。今後常にこれはやらねばならない。曲は「もしくかめよ」

### ○たんぼぼ

### ○蝶々の自由表現

### ○春のリズム遊び

たねをまくと皆が種になつて土にうづもれる。

芽を出す

葉が出る

花が咲く

蝶がとんでくる。これらの動作をピアノに併せて自由に表現させる。

### ○チューリップ

ままごと等年少組の方に歌つてきかせてあげる。

### ○金太郎

四月の最後の週から五月五日の子供の日のための歌を少しづつは始める。

## 音楽 リズム

<p>製作 お画かき</p>	
<p>○帳面にすぎなものをかく。 かいたものは何であるか聞いてその横に小さくかいておく。 日附を記しておく。</p> <p>○色紙で好きなものを切らせる。 切つたものをはれる人ははらせるがはつてやつてもよい。 やはり何であるかかいておく。</p> <p>○チューリップの手提 形を印刷しておいてぬつて切るだけさせる。これは花の形に手のついた簡単なものである。 組立てるのはこちらです。</p>	<p>とか「お手々つないで」のように耳なれた簡単なものがよい。</p> <p>○スキップをする。 はじめは出来る人だけでよい。年長組のお仲間入りでやらせてもらう。 出来ない人をしてさせる事はいらない。</p> <p>○こちらのいうものの自由表現 あひる、蝶々と指名してその表現を自由にさせる。はじめはしないでうるうるする人がいるが、先生が言葉でそこをおぎなつてあげると少しづつでも手足がうごいてくる。はじめは年長組のをみてまねでよい。</p>
<p>○花籠 ・摘草に持つてゆくのを作る。 ・年少組にお土産にあげるのを作る。</p> <p>○首飾り 打ぬきとむぎわらと交互に通したものを。年少のお土産にしてもよい。</p> <p>○お画かき 自由 えのぐで</p> <p>○切紙 自由</p>	

<p>○首飾り</p> <p>花とむぎわらとを交互に通す。 花はなるべく大きめに切る。</p>	<p>健康の習慣</p> <p>○朝登園したら手を洗う。 ○砂場その他で手が汚れたら必ず洗う。 ○帰宅後の手洗とうがいの約束する。 ○仕事の前には用便にゆく。 これはしばらくの間こちらで必ずゆくようにうながして習慣をつける。 用便の手洗等もこの時によく約束する。 ○四月の身長 体身の測定</p>	<p>よき習慣</p> <p>○朝と帰りの挨拶 ○遊んだ道具の後仕末 ○靴をはきかえて外へ出る ○自分の道具類の取扱と後仕末 ○仕事をした後の仕末 切くずをひろつておく ○糊のつけ方、紙をひいてつける。 ○常に先を争わず順に列んでする 家庭からはじめての社会生活にはどうしても自分だけの事</p>
<p>○風車(プロペラ式のもの)</p> <p>出来たものは皆で広い所でまわしつこをするとよい。 まわらないのはどうしてまわらぬか考えさせる。 色が誰のがきれいかも観察する。</p>	<p>○食後歯をみがく ○食物はよくかんで食べる ○手の洗いを再約束する 表だけ洗つておくのでなくよくうらもあらうようにする。 ○鼻が出たら自分でかみ、いつもきれいにしておく。 ○四月の身長体重の測定</p>	<p>○年少者をかわいがる ○共同のものは自分ばかり使うのでなくかわりあつて使うように ○当番をきめる 年長組になるとお当番を二人づゝきめる。その人達の仕事は皆と話し合つてきめたい。はじめはあまり重荷にならないよう、形式程度で二学期位から責任を持たせたい。 ○言われないでも遊んだ後仕末はちゃんとする</p>

しか考えられず皆が先にと争うが、これも何事も列んでやる習慣をつけて次第に団体行動へ誘導してゆきたい。

○遊具はお友達と仲よく用い、又大切に使うようにする。

入園当初は一つ一つの事が習慣として考えられねばならぬ事、はじめにその機会毎に約束しておかねばならぬ。以上の項目よりも沢山その園により又場所によつてよき習慣を約束してほしい。

行事

- 入園式
- 天皇誕生日

- 始業式
- 入園式
- 天皇誕生日

四月の保育所

鈴木 とく

花開く四月は諸々の仕事の新年です。幼児にとつては、常と変りないものでも、保育者にとつては、夢よ、もう一度……でありたいと思います。その夢が、幼児へ新年を感じとらせることでしよう。計画の表現は個案書の無味なものでも、実行には理想への一押の努力を……。

今月から、大体一ヶ月の中の各週の計画のメモを考え、(之は保育所全体の動きの様なもの)その上で、出来れば年令別にした保育

の動きか、保育内容別にした扱い方等について、覚え書きの様なものを、考えて行きたいと思ひます。

○第一週、進級した幼児の保育と、新入する幼児の為の保育の準備

○保育者が変わったら、なるべく早く早く親しめるような遊び方をする。

○部屋が変わつたら、その部屋での、ものゝ置場等を一緒に話し合

う。

之は大きい部屋の或片隅でも、その組の為のスペースとして考えて行きたい。

○貼紙等、出来上つている便利なものを使うのもいいが、人数の少い中に、希望をきいて、略画を切りぬかせたりして、各自の

物の置場、その他のもの、位置づけを、遊びながらする。

○新入予定の幼児の為に、も考えてあげる様な話し合いをする。

○どの辺か散歩しながらでも、新入児の家庭訪問をする。

○福祉事務所の書類、所長が記入した児童票（之は、保母が記入させて頂く様に、所長に希望したらよいと思う）等に目を通して、新入児のアウトラインを纏んでおく。

○保育の計画を、その保育所の今年度の方針を念頭におきながら考えておく。それと一緒に、自分の保育日誌のつけ方、或は記録のポイント等についても考える。

○組の受持が変つたら、前の保母に、個々の幼児について大体の事を話してもらう。新入児の家庭での様子をきくための、調査の仕方を考えておく。

## ○第二週、新入児を迎える。

新入児の入所のさせ方は、その所長の考え方によつて違ふと思えますが、保育所の立前から云えば、定員が欠けていけば、いつでも新入所児を迎える、と云う事ではいけないと思えます。たゞ三月は、小学校入学で、比較的多くの幼児が退園するので、新入所児が多くなるのだと、考えなければいけないと思います。

入所児の年齢によつて、四、五才児（四月一日現在）は、一緒に日に入所させても、三才以下は、人数と、日を区切つて入所させるとか（二人或は三人を四日か五日おきに）全部一緒に入れて、保育時間を年令に応じて短時間から長時間に移して行くとか、方法はいろいろありましようが、どれが年少幼児の為によいか、考えて行き

たいと思います。

○この週の一定の日に、新入と決つた幼児のお仲間入りの会をする（入所式と名づけた方は、又御自由ですが）

○その日迄に、すこし賑かに——けれど余り幼児にこびずに——部屋を飾つておく。

○所長の意見の通り、登所の日、人数等の計画をする（全員同じの時は之は不要）

○保育所の環境をしらせ、古いお友達としたしませる工夫をする。

○前からいる幼児が、新入児の為に、保母の意識の外におかれる様な事がない様に、新入児へ、保育所内外の勝手をしらせる為のお世話役等をさせる工夫がいる。

## ○第三週、新入児が、新しい環境に早くなれる為の保育。

○登所のしかたを工夫する。個々に来ないのでなるべく古いお友達によらせる保母が、一定の所まで迎えに行く。

○年令別組わけはしても、個々の組別保育の計画は、この週は立て、も出来ない覚悟をしておく。

○年少組に、泣く子、逃げ出す等があつた場合の事を考えておく必要がある。

○困の中に入れられた感じを抱かせない様な保育、見せるもの、してあげるもの等を工夫しておく。

○午前のおやつ等で、全員が一緒になつたり、年令別で一緒になつたりする時間をつくる。

○庭の遊具、ブランコ、砂場、滑り台を中心に、箱車、三輪車その他の動かせる物で、自由に遊べるのだと云う感じを与える。

○この週の終り頃迄に年長、年中組の新入児は、お弁当をすませて帰られる様にした。

○すこしずつ、共同生活にきまりのある事をしらせて行く。登所のあいさつ、遊ぶ前の、持物のしまつ、それ等を自分の力でする様に。

#### ○第四・五週、保育所生活に規律がある事を感じさせる。

○一日の楽しい遊びの中に、時間的な区切りのある事が感じられる様に。

○古い幼児には、以前の時とちがい、保育所内での態度がすこし大きくなつたと云う自覚をもたせる様に。

○年令別の保育の中で、安心とまとまりと親密度を増す様に。

○各自が何を好み、何を求め、どんな事に欠けているかを、さつとでもよいまとめて、五月の保育案を計画する土台とする。

各週の覚え書き的な計画が、もつと細かであつてもいいのです。が、細かにしすぎると、出来なかつた事の悔恨が、翌週への希望をなくしたり、保育への自信をすこしずつ、くずして行つたり等しては、却つていけませんから、なるべくポイントの二、三に重点をおいてその保育方法を考えましょう。

四月中は、新入児を保育所と云う新しい環境に慣れさせる事で過ぎてしまうのですが、以前のからの幼児の保育の仕方も考えてあげませんと「なんだつまらない」と云う事で、取扱いに困る現象が出て

来る事があります。

全員が殆ど同時間保育出来る様になる迄は、何かと引き立てる様に又は新入児の帰宅後の組別の時など、一倍心と手を傾けてあげる事をお忘れになりませんように。

#### ○遊びについて

家庭にいた時と同じ様にとられない気分を与える為には、外遊びの自由が一番よい事に気付かれています。年令が低ければ、どの玩具も全部手にふれてよいと云う出し方をしておいてあげるのもよいでしょう。

遊びについての覚え書きをしてみますが、この時も、矢張り保育の古い幼児にリードさせるとか、自分の好きな事をやらせておくとかしましょう。

○玩具による自由な遊び、年少程家庭にあるものとか又はめづらしいもの。

少し位の破損は覚悟しておく事、たとえば絵本をさくとか、ほりなげたり、つぶしてしまつたり等。

○砂遊び、土掘り、ブランコ、滑り台等、庭の遊具に、保育が付添つて遊んであげる（之は最初の状態）

○縄、或はたゞ着物につかまつての汽車遊び、大きなボールを順にころがし、受ける等。

○まわりに集つた幼児丈の小さいグループで、円を描いて中に入つてする鬼ごっこ、かごめく、あぶくたつた、竹の子ぬき、等の簡単な、街でも遊ぶ郷土遊び。

○おやつを、街頭紙芝居の様に、太鼓や、積木の拍子木でふれて  
あるいて、一疋まとめて短い紙芝居の後に、みんなで頂く。

○だん／＼集つている時間を分らない様に長くして、知つている  
歌をうたつたり、お話、紙芝居、人形芝居等をやつてあげる。  
こんな事で小時間じつとする事が出来て来る様に。

○少時集つていられる様になつたら、団体遊び、猫ねずみ、椅子  
とり、いらつしやい、や、歌のある団体遊び等をして、一同で  
遊ぶ面白さを味はせる。

○折紙を、おやつのお皿代りにした後、思い／＼に折らせたり、  
簡単な基本を教えたりして、折紙等に、出来ないと言ふ不安を  
感じさせないで、手技や、工作への糸口とする。簡単な折紙芝  
居をして、こんなのを、皆も折つて見ましようでもよい。初め  
から、手をかけなければ出来ない様なものでなく、自分で折つ  
たと云う誇りを持たせる様な風に。

○材料を出して置く事で、前から居る幼児につられて、粘土も、  
絵画きも、切り紙も、手をふれる状態をみていて、進んでやれ  
る様に勇氣をつけてやる。

以上、新入児を、保育所と云う場や、一度に出来た新しいお友達と  
云う集団に、徐々に慣れていける様な遊ばせ方と思はれるものをあ  
げましたが、こうしたやり方も、社会性のある幼児でしたら三才半  
位から、四・五才の大きい幼児にむくものと思ひますが、三才以下  
或は四才でも社会性の少い幼児は、ひとり／＼手をかける様にして  
環境に順応させていかなければならなりません。

一・二才と、三才児には、その年令だけが安心して遊べる環境をつ

くつてあげる必要を、いつも感じます。一・二才は、乳児として、  
別室を最低基準で命令していますが、三才になると、一躍、五才の  
幼児と同等な扱いで、保母も、三十人に一人ですすから、この所を  
年少の幼児の為に、どの年令の組の保母も自分の事の様に考へてあ  
げる様にしたいと思ひます。三才になつたばかりの幼児の、最初の  
大きな不安（母からはなれると云う）を、温い情と、その年令の状  
態を知る理智とで少くし、とり除いてあげる様にしたいものです。

各種の玩具、それも、立派なものではなく、本当に素朴なものを、  
そして、しつかりと握つたり、抱きしめたり出来るものを、あちら  
こちらにおきましょう。二、三日しますと泣きあぐんだ乳児は、他  
のお友達が持つているものに気がつき、よち／＼と其処迄行つて、  
又、保母の所まで持つて帰つて来ます。こんな所から、玩具との関  
係がついて来る様です。乳児は、あくまで保母対個人である事を念  
頭において、最初に、よいか、れる安定感をつくつてあげ、それか  
らすこしずつ手ばなしてひとり遊びにむかわせましょう。

三才児も、一・二才と同じ様に、四月中の保育予定案は、個人々  
々が、保母になれ、集団の中にいられる様に工夫する事できると  
思ひます。この年令は、なか／＼集められませんが、続きませんし  
身体的な事にも、一人一人手をかける部分が多いので困ります。

理想としては十五人一組位で広い部屋がほしいと思ひますが、そ  
んなわけにもゆきませんから遊具丈でも、三才児が使うものを決め  
て、大きい人達には遠慮してもらう様な方法をとります。私の  
所の保育所は遊具を買つて頂けないで、とは、どの保育所の保母の  
なげきでもあります。みかん箱大小数個、板（六寸巾で厚いもの）



古い小布団、積木、まり、木製方碁、ま、ごと道具等あれば、何とか遊べます。最初は、危険のない様に見守りながら、個々の状態を知る事に努力しましょう。

遊ばせながら、集るきつかけを見出す事。

喜んでみんなと集る方法（遊び）を見出す事。

一組全体が何分位一緒にいられるかを見る事。

等で、三才児のクラスとしてまとまり方を研究して行きましょう。

この間に、保育所での生活のし方を、時間的にノートしておいて下さい。たとえば登所の揃う時間が何時が適当だったか、全体が何となくあきて、保育の側にまとわりつくので、集るきつかけをつくつたのは何時頃だとか、又「朝登園後は」「皆で集つて何かする時は」「帰る時は」等の、こちらがさせたい。きまりのある美しく正しい生活の元となるものは何か、をそのわきにメモをしておきましょう

四月の終り頃には、眞夏迄の春の部の一日の生活プログラムが出来上ると思います。一日の生活プログラムの内容が細く検討されて行つて、保育案の元となるものだとお考え下さい。

### ○家庭との連絡

之まで各週の予定と遊びのメモ及び注意、年少保育の心やり等記しましたが、家庭に代つて保育する様に託された各年令の幼児をほんにより幸福に保育しようとする、家庭での生活状態を予備知識にもつていたいし、日常の連絡も密にしたいくなります。

一度に沢山の事を、お母さんにおき、しても、うるさかされては幼児の為になりませんから、少しずつ、自分が一番知っておきたいと

思うことから、項目をつくり、質問の形式を拵えておいて、土曜日にもお渡しし、月曜日に持つて来て頂く様にしたらよいと思ひます。個人別に綴つておく事で、目を通せば家庭での扱われ方、お母さんの育て方がわかると思ひます。

一番やりよい、そして又知つておき度い事は、食事の好き、きらい、時間、量、間食、与え方、起床、就床時間とか云う生活習慣の様子だろうと思ひます。五月の時に、私の所で実施しました調査項目を、御参考に供したいと思ひます。

家庭との連絡は、細々といくつも挙げられますが、

○登所時間、途中で何か買つて与えない事。

○衣服はよごしてもおしげのないものを着せること。

○肌着はつぎをあて、も、清潔に洗うこと。

○月に一度の母の会には都合して必ず出席して頂くこと。

○泣くからと云つて保母さんや保育所を、おどかしに使わないこと

○歌つたり踊つたりすることをむやみに要求してさせないこと。

○持ち物、着物には、忘れず全部名前をつけておくこと。

○泣いてなかく慣れなくても、子供と一緒に母親も我慢すること等は主なものでしょうか。各保育所の特別なしきたりについて連絡は所長からお話はあるでしょうが、保母も亦その意図する所を了解して、受持の個々のお母さんに、よくわかる様に、お話をすることを忘れない様にしたいと思います。

四月の母の会の話題はどうしても、幼児のこの様な施設を理解して頂く事と、赤ちゃんから学校へ上る迄の幼児の家庭での扱いが、どんなに大事なものを、わかつて頂く様な内容がよいと思ひます。

暮の暮まじりの掃りである。電車通り一つ渡れば六区に入る。瓢箪池の跡を見たいと思つて、裏へはいる。何館、〇〇館のジントラの騒音を背にして、新築中の観音堂の前に立つて、観音さまと舞い立つ鳩君とに御無沙汰のあいさつをして、仲見世に出る仲見世の並び店のむこうは、筆者の母校馬道小学校である。その頃のおちいさんよりはまだ幼い孫蓮のために、玩具店を見ながら、ぶらりと、雷門の方へ歩く。

おばあさんが立寄つた店を何かとふりかえれば人形焼屋である。昔のとは違つていると思つて娘さんに聞くと、あれはもう代りまして、という。だが銀座の洋菓子店でないことに昔を偲んで、昔と同じような顔なじみの人形焼を二袋買つて、歩道沿いに吾妻橋の方へ来る。

おばあさんがまた立ち止つたのに足を止

## 大道おもちゃ

倉橋生

めると、地下鉄の建物のわきで角力人形の大道おもちゃである。仲見世の現代玩具の中にも刀剣やピストルも多いのどれにも目をとめなかつた筆者は、その角力人形にすもうをとらせている人形売りの前にその男の仕かけでもあるように足がとまつた。

うちに掃つてから、よく点検研究(?)してみると、至極く簡単な工夫だが、小さいゴム球を握つて空気を送ると、白と赤との小さいセルロイド力士が、立つて仕切つてだまし、調子おもしろく、土俵の上で取組むのである。力士の名のりなどまだ知らぬ小さいひいきは、赤い方が負けたとか白い人の方が強いねとか、盛に応援する。その力のはいつた光景を昔の名力士、今の年寄が、四本柱でニコく見ていたことはいまでもない。

## 保育應答研究会

倉橋先生を中心に、毎回御熱心な多数の方々の御参加により、終始活潑な討論と、和やかな雰囲気で、盛會を得て居ります。

一月〜四月迄は、種々の都合上、勝手乍ら、休会させていただきます。

フレーベル館内

保育応答研究会係

幼児の教育 第三巻 第四号

定価 金五十円

昭和二十八年四月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋 惣三  
発行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

〇本誌御購読について注文申込その他はすべて發賣所フレーベル館宛願います

お茶の水女子大学名誉教授

刊

近 倉橋惣三先生著

幼稚園眞諦

B 6 一四二頁 予價一八〇円

久しく絶版になつておりました、「幼稚園眞諦」を改訂復刊いたしました。

幼稚園保育の、眞の在り方を、平明な説き方によつて、講じられたもので幼稚園の理解と、再考究とのために、必読の書であります。

副島ハマ先生著

折紙教本

B 6 上製 二六四頁 定價二五〇円

品切の為大變御迷惑をおかけしておりました折紙教本がこのたび新装成つて出来上りました。御用命下さいますよう。古來我が国独特の優美な手芸として幼児に親しまれてきた折紙を指導されるには絶好の図書として広く御推薦致します。

發行所 株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町二ノ五

戸倉ハル・小林つや江両先生著

うたとあそび

定価 三二〇円  
千 四八円

著者自信の傑作集です。幼稚園・小学校低学年用の教材として既に定評のあるものです。ラジオでもよく放送されるうたとあそびです。すぐ使える楽譜がついています。振付も独特のおもしろいものです。春夏秋冬の四季に分類配列してあります。表紙は七色オフセット刷りです。一曲ずつに挿絵があります。品切中のところ第五版が出来ました。

わらべうたとあそび

定価 三二〇円  
千 三三円

関東地方を中心に、た古童謡をあつめたものです。あそび方が説明してあります。楽譜もすぐ使えます。表紙はオフセット色刷り、挿絵も入っています。

ハンドカスタのゆうぎ

定価 三〇〇円  
千 四八円

ハンドカスタのつかい方がくわしく説明してあります。ハンドカスタをつかつてするおゆうぎのしかたが説明してあるのです。楽譜もちゃんとのつています。ハンドカスタをゆうぎに採り入れたところに特徴があるわけですからこの運動会は更にハンドカスタをつかつたゆうぎがさかんになるでしょう。

〇「ハンドカスタ」も発売しています

發行所

株式会社 不昧堂書店

東京都文京区大塚仲町二  
電話(36)二七〇三・〇九九二  
振替東京六八七三九

5 月 号 予 告

観  
察

# キンダーブック

繪  
本

KINDER-BOOK

第 8 集

【う ま】

第 2 編



☆お子さま方の感情と知識の  
成育のために古く広く好評の高い本☆

A 4判16頁・月一回発行  
解説 8円  
定価 45円・送料 8円 付

「う ま」

新鮮な若葉の季節に、  
はち切れる仔馬の可愛い  
生態と、親馬達のいろい  
ろな場面とを、お子様の  
興味をひく範囲に於て捉  
え、馬と人間との愛情  
を、理窟でない所で示す  
ことに意図を置きまし  
た。現在の日本人の生活  
の中の運搬や耕作の上で  
馬は、決して軽く考え捨  
て去ることのできない問  
題をもつています。それ  
えゆ、お子様がたに、か  
しこく健康な「馬」への  
愛情をはぐくんで頂きた  
いと存じます。

発行所 東京都千代田区神田 株式会社 フレーベル館 振替口座東京 一九六四〇番  
小川町二丁目五番地